

新世紀とやま文化振興計画（案）

平成 18 年 9 月

下線部は、「新世紀とやま文化振興計画（仮称）の
中間報告」（18年7月）からの変更箇所

目 次

<u>はじめに</u>	1
<u>第 1 計画の趣旨等</u>	3
1 計画策定の趣旨	3
2 計画の位置づけ	3
3 計画の期間	3
4 計画が対象とする文化の範囲	4
<u>第 2 文化活動の現状と課題</u>	5
1 県民の文化活動	5
2 文化施設	19
3 高齢者、障害者の文化への参加	25
4 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動	25
5 世界への文化の発信	29
6 伝統文化の掘り起こし、活用と発信	30
7 情報通信技術等を活用した新しい文化の創造と発信	38
8 文化と産業の連携	40
9 文化を活かした地域づくり	43
<u>第 3 基本目標と基本的方向</u>	47
1 基本目標	47
2 文化の担い手と県の役割	48
3 施策の方向性	49
<u>第 4 施策体系</u>	51
<u>第 5 主な重点施策</u>	52
1 文化活動への幅広い県民の参加	52
2 質の高い文化の創造と世界への発信	60
3 文化と他分野の連携	66
<u>第 6 文化振興のための体制づくり</u>	72
1 多様な主体による連携・協働の仕組みづくり	52
2 多様な意見を反映する仕組みづくり	60
3 国や市町村等との連携体制の確立	66
資料編	74

はじめに

現代の我々の生活は、これまでの経済成長の結果、物質的な面では充足が進み、成熟社会になってきている。その反面、閉塞感がある現代社会の中で、精神的な面で人々は心のやすらぎ、癒しを求めるようになってきている。このような状況の中、文化の重要性は高まってきており、改めて、文化が我々の社会や生活に与える影響、すなわち文化が持つ力を認識する必要があると考えられる。

文化の力としては、以下のようなことが挙げられる。

- やすらぎとうるおいのある暮らしの実現

文化活動を通じて、文化を楽しみ、文化に感動することは、人々の生きがいとなり、心にやすらぎとうるおいを与え、人と人とのふれあい、結びつきを強め、人々に生きる力を与え、心のよりどころともなる。

- 次世代を担う子どもたちの育成

これからの時代を担う子どもたちにとって、柔軟で感受性すぐれた年代に本物の文化を体験し、文化活動に参加し、文化を通じてかけがえのない出会いをすることは、感性と表現力豊かな社会人を育成することにつながる。そしてそのことが、社会に貢献する人材を育成し、地域の文化の水準の向上にも寄与することとなる。

- 文化による地域づくり

少子高齢化や過疎化、市町村合併の進展により、地域の人口構成が急速に変化し、地域社会の機能低下や地域の伝統文化の担い手不足なども指摘されているが、地域の文化は、地域をまとめるうえで大きな力となる。また、他方で、人々は、その地域でしか得られない特色あるものを求め、訪ね、集まり、ふれあい、文化を楽しむ。文化を通じて出会いがあり、そこににぎわいが生まれ、その過程で新たな文化が展開することになる。

- 文化による産業の創出と経済の活性化

人々が求める商品やサービスは、文化による付加価値の高いものを求める傾向がますます高まっている。その地域にしかない、その地域ならではの伝統的な文化から生まれた商品が、世界で多くの人々から受け入れられようとしている。文化による産業の創出、経済の活性化が期待される。文化は産業の基盤であり、産業の創造も文化である。

- ・ 文化による生活福祉の充実

高齢化の進展に伴い、福祉分野における文化の力が注目されている。病気による障害や機能の低下に対し、音楽や美術、以前に体験した文化が、機能の低下を防止し、覚醒させ、生きる力や喜びを与えることが期待される。

- ・ 国際交流による友好と平和の推進

文化を通じた国際交流の機会はますます多くなり、特にインターネットの普及により国境を越えた交流と対話、協力が活発になってきている。人と人との文化による交流は、互いが有する価値観の基盤を知ることとなり、友好と平和を推進する。同じ感動を共有し、人類として共通の喜びを味わうとともに、相互の文化の違いを学び、価値を認めあい、相互に尊重する。地域文化の相互交流の意義は一層大きくなっている。

以上のような文化の持つ力を最大限に発揮していくため、文化を振興していくことは極めて重要である。

本計画の策定により、富山県における文化活動が一層活発になり、文化の水準が向上することによって、県民の生活がより豊かで心やすらぐものとなり、文化が経済、社会の原動力となり、地域の誇りとなって、文化の振興を通して「元気とやま」が創造されることを期待する。

第1 計画の趣旨等

1 計画策定の趣旨

県では、国の文化芸術振興基本法の制定（平成13年12月）に先駆けて、平成8年9月に富山県民文化条例を制定した。この条例に基づき、平成10年4月には、富山県民文化計画（以下、「前計画」という。）を策定した。前計画では、日本一の文化県を目指して、県民すべてが文化に親しみ、文化を暮らしに活かし、創造活動に参加するなかで、“文化の香り高いふるさと富山”を実現することを目標とし、文化活動の「人づくり」「場づくり」「ネットワークづくり」を進めるとともに、文化的な生活環境の整備や公共施設の文化性導入など行政の文化化に取り組むこととしていた。

県は、これまで前計画に基づき、県民の文化活動への参加を促進することなどにより、文化振興のための各種施策を推進し、一定の成果を挙げてきた。しかしながら、前計画を策定してから8年以上が経過し、グローバル化、少子高齢化、情報化が急速に進展するなど、社会経済情勢が大きく変化し、県民の文化活動の状況や県の財政状況も変化するとともに、特定非営利活動法人（NPO）やボランティアなどの民間部門の活動形態が定着してきていることなどから、これらの変化を踏まえたものとする必要がある。前計画はやや抽象的であることから、文化振興の方向性及び重点的に実施すべき施策を県民に具体的に分かりやすく示すため、新しい文化振興計画を策定するものである。

2 計画の位置づけ

富山県民文化条例第8条第1項に基づく文化振興に関する基本計画である。

3 計画の期間

本計画の期間は、平成18年度から平成27年度までの10年間とする。

4 計画が対象とする文化の範囲

一般に「文化」は、芸術と呼ばれるものから日常の生活様式に至るまで、その範囲については、かなり幅広く捉えることもできるが、本計画では、芸術、生活文化、メディア芸術、芸能・娯楽、伝統文化を中心に、「文化活動への幅広い県民の参加」、「質の高い文化の創造と世界への発信」による文化の水準の向上と活性化の観点から記載するとともに、にぎわいづくり、産業振興、観光との連携など「文化と他分野の連携」による総合的な文化振興の観点から記載する。

第2 文化活動の現状と課題

1 県民の文化活動

(1) 県民アンケート等

ア 県政世論調査（県広報課）

県民が県の芸術文化の振興施策に関して満足する割合は上昇する傾向にあり、引き続き、その向上に努める必要がある。

表 1 県政世論調査

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
満足、どちらかと言えば満足と答えた人の割合	17.7%	20.7%	22.2%	25.1%
県の施策の中での順位	16位 (61 施策中)	12位 (40 施策中)	11位 (70 施策中)	12位 (65 施策中)

イ 文化に関する県民アンケート調査の概要（県生活文化課）

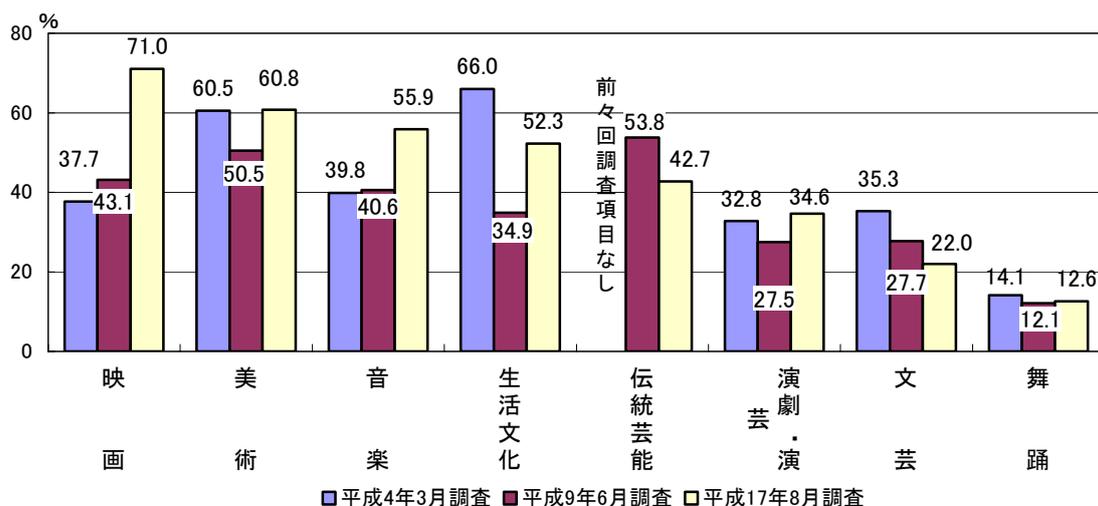
県民の文化に関する催しへの外出、自宅での鑑賞や、文化に関する創作活動等は、いずれも前回調査より増加し、活発である。また、自ら創作活動を行う人の割合は、文化の鑑賞をした人の割合の半分以下である。

分野別にみると、出かけたことがあると答えた人の割合は、前回調査と比較して、ほとんどの分野で上昇しているが、「伝統芸能」、「文芸」は低下している。また、家庭での鑑賞では、「伝統芸能」のみ低下、「舞踊」は横ばい、その他の分野は上昇している。

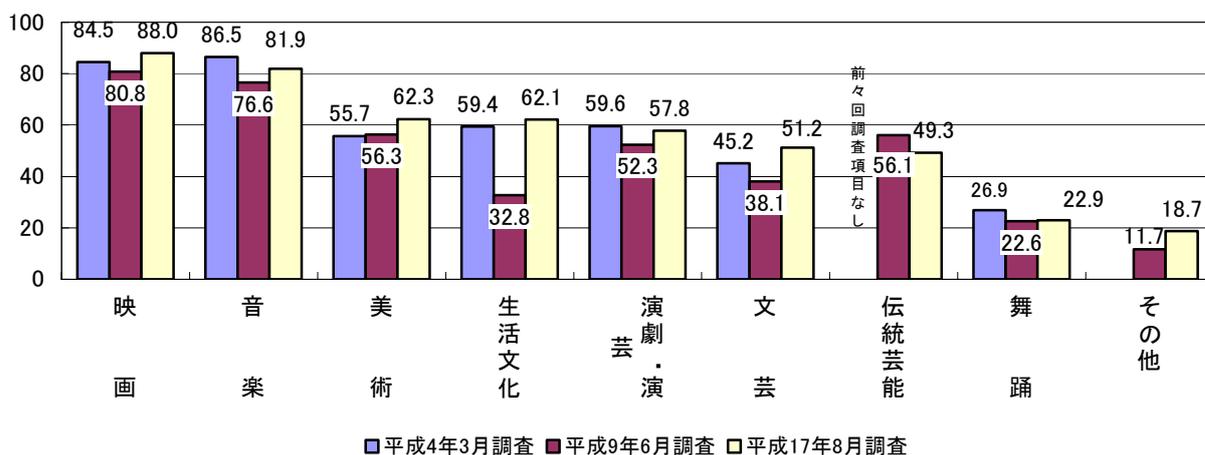
表 2 文化活動の状況

	平成 9 年度	平成 17 年度
この 1 年間に、文化に関する催しに出かけたことがあると答えた人の割合	77.1%	89.9%
この 1 年間に、家庭でテレビ、ラジオなどで文化の鑑賞をしたことがあると答えた人の割合	90.6%	94.7%
この 1 年間に、自分で演じたり、作ったりしたことがあると答えた人の割合	30.9%	39.3%

グラフ 1 文化に関する催しに出かけた状況



グラフ 2 家庭での鑑賞



公演や展覧会など文化の鑑賞に出かけない理由として、「出かける時間が少ない」(33.0%)をあげた人の割合が最も高く、次に「関心がない」(31.6%)、「公演時間等が自分の生活時間と合わない」(19.0%)が高くなっている。

性・年代別に見ると、「魅力のある公演や催しが少ない」をあげた人の割合は男女とも20歳代(男性23.5%、女性18.8%)で高くなっており、「交通の便が悪い」をあげた人の割合が男女とも70歳以上(男性28.6%、女性27.3%)で高くなっている。

文化活動への関心が弱い人々に、文化に関わろうとする動機づけが課題である。

表 3 出かけない人の理由

(複数回答) 単位: %

	出かける時間が少ない	交通の便が悪い	同好の仲間が少ない	家族等周囲の人の理解が得られない	魅力のある公演や催しが少ない	公演や催しに関する情報が十分でない	費用がかかり過ぎる	入場券が入手しにくい	公演生活時間等と合わない	関心がない	その他	特になし	
全体	33.0	9.5	14.6	6.1	12.6	11.2	14.3	5.8	19.0	31.6	7.5	5.4	
男	20歳代	23.5	5.9	11.8	-	23.5	35.3	11.8	-	23.5	41.2	-	-
	30歳代	45.5	9.1	9.1	4.5	18.2	4.5	18.2	9.1	13.6	40.9	-	9.1
	40歳代	45.5	-	13.6	9.1	18.2	18.2	9.1	-	31.8	36.4	4.5	-
	50歳代	37.5	9.4	15.6	-	15.6	9.4	12.5	9.4	28.1	37.5	6.3	3.1
	60歳代	20.0	4.0	32.0	4.0	12.0	12.0	28.0	8.0	8.0	36.0	4.0	8.0
	70歳以上	-	28.6	14.3	-	-	-	-	14.3	14.3	28.6	28.6	28.6
	女	20歳代	25.0	-	12.5	-	18.8	12.5	12.5	-	12.5	43.8	12.5
30歳代		43.8	9.4	12.5	12.5	15.6	6.3	12.5	3.1	21.9	31.3	6.3	-
40歳代		32.1	7.1	10.7	10.7	14.3	10.7	21.4	17.9	21.4	35.7	-	-
50歳代		36.4	12.1	15.2	9.1	3.0	15.2	24.2	-	15.2	30.3	3.0	9.1
60歳代		52.6	5.3	10.5	10.5	-	10.5	10.5	5.3	15.8	10.5	10.5	10.5
70歳以上		13.6	27.3	18.2	-	4.5	9.1	-	9.1	18.2	13.6	27.3	4.5

公演や展覧会など、文化の鑑賞に出かけるにあたっての情報の入手先としては、「テレビ、ラジオ、新聞や雑誌など」(78.1%)をあげた人の割合が最も高い。

性・年代別に見ると、「友人・知人や家族など」をあげる人は、女性の70歳以上(56.4%)で高く、「市政だよりや回覧板などの市町村の広報誌」をあげる人は、男性の70歳以上(58.3%)で高くなっている。「インターネット」をあげた人の割合は、男性の20歳代(41.4%)で高くなっており、若い年代ほど高い。

情報の入手先が性別・年代ごとに多様化しており、こうした状況に応じた多様な情報提供の方法を考える必要がある。

表 4 情報入手先

(複数回答) 単位: %

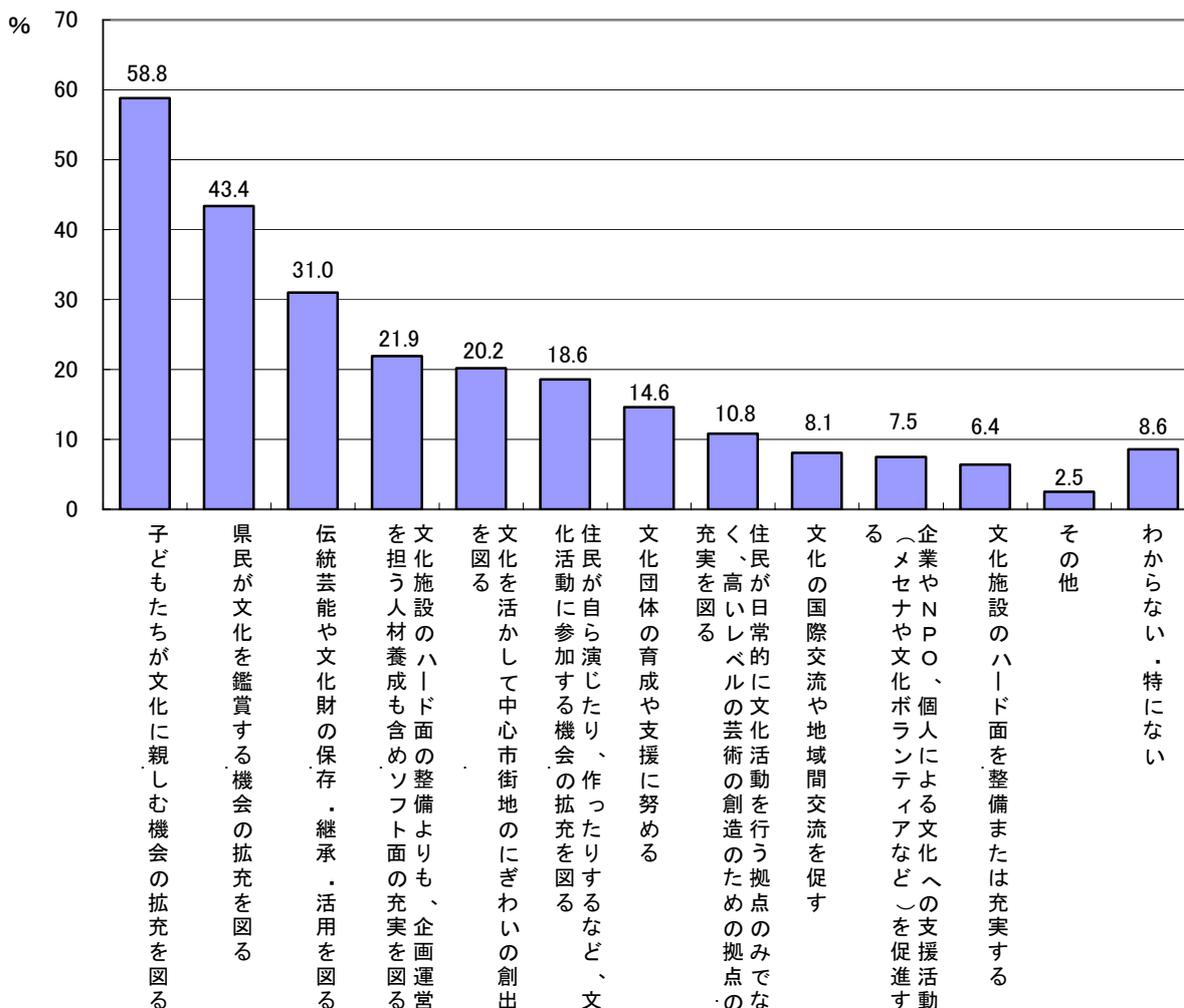
	家族人など知人や	誌オテな、レなど新ビ聞、やラ雑ジ	ラポシスターやチ	トなブ売どレりのイ場チケイッ	誌広板市報政なだよりの市や回覧の	トインターネツ	その他	特になし	
全体	33.3	78.1	29.5	5.0	35.7	15.3	3.6	3.6	
男	20歳代	20.7	72.4	31.0	3.4	10.3	41.4	3.4	13.8
	30歳代	34.2	81.6	42.1	2.6	36.8	31.6	10.5	5.3
	40歳代	13.3	73.3	31.1	8.9	20.0	20.0	4.4	6.7
	50歳代	33.3	77.2	21.1	3.5	36.8	14.0	-	5.3
	60歳代	21.6	80.4	27.5	2.0	43.1	2.0	-	-
	70歳以上	27.8	75.0	25.0	2.8	58.3	5.6	2.8	5.6
	女	20歳代	48.6	86.5	37.8	2.7	24.3	21.6	2.7
30歳代		32.1	80.4	32.1	5.4	39.3	19.6	5.4	1.8
40歳代		29.6	90.7	33.3	5.6	37.0	24.1	3.7	-
50歳代		36.0	84.0	34.7	5.3	38.7	12.0	1.3	2.7
60歳代		43.3	71.7	26.7	11.7	36.7	5.0	-	1.7
70歳以上		56.4	69.2	15.4	2.6	35.9	2.6	10.3	5.1

子どもたちにとって鑑賞や創作活動が大切であると考えている県民の割合は、自らが取り組むことが大切であるとする割合より高く、また、県が重点を置くべき施策として、次代を担う子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図ることをあげる割合が最も多い。

表 5 文化に関する意識

	自ら	子どもたち
文化の鑑賞をすることは非常に大切、ある程度大切だと答えた人の割合	88.2%	94.9%
演じたり、作ったりする文化活動は非常に大切、ある程度大切だと答えた人の割合	55.4%	84.7%

グラフ 3 文化振興を通じて「元気とやま」を創造するために重点を置くべき施策

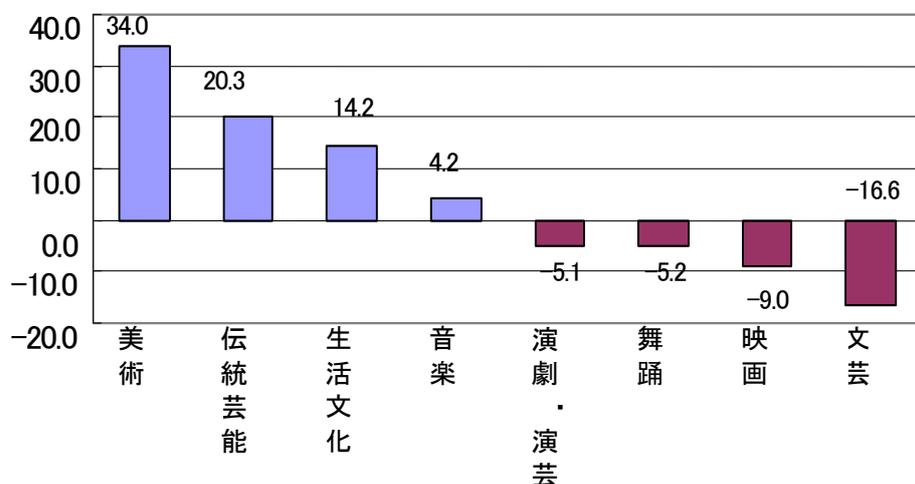


本県の文化活動が盛んである、または盛んでないと思うかについて、盛んであると答えた人（「盛んだ」＋「どちらかというと盛んだ」）と盛んでないと答えた人（「あまり盛んでない」＋「盛んでない」）との差で見てみる。

盛んであると思っている人の割合が高かった分野は、「美術」（＋34.0ポイント）、「伝統芸能」（＋20.3ポイント）、「生活文化」（＋14.2ポイント）、「音楽」（＋4.2ポイント）となっている。

盛んでないと思っている人の割合が高かった分野は、「文芸」（－16.6ポイント）、「映画」（－9.0ポイント）、「舞踊」（－5.2ポイント）、「演劇・演芸」（－5.1ポイント）となっている。

グラフ 4 県の文化活動が盛んである、盛んでないと思う状況



「全国的に又は国際的に誇れる文化」については、「世界遺産『五箇山の合掌造り集落』などの歴史的な町並みや集落、建造物」（70.6%）をあげた人の割合が最も高く、次に「『おわら』、『むぎや』に代表される民謡や『曳山』などの民俗芸能」（64.0%）、「国宝瑞龍寺や勝興寺、瑞泉寺などの寺社」（54.9%）をあげた人の割合が50%を超えて高い。一方、利賀の演劇や国際演劇祭などは、国際的に高い評価を受けているものの、県民に必ずしも知られていない。

年代別に見ると、「ますのすし、地酒、五箇山豆腐などの歴史・風土に培われた食文化」をあげた人の割合が男性の30歳代（50.0%）、20歳代（45.2%）で高く、「近代美術館や水墨美術館、立山博物館などの特色ある美術館・博物館」を挙げた人の割合が女性の60歳代（53.3%）、70歳以上（50.0%）、男性の70歳以上（47.2%）で高くなっている。

表 6 全国的に又は国際的に誇れる文化

		(複数回答)											単位: %	
		国宝瑞龍寺や勝興寺、瑞泉寺などの寺社	世界遺産「五箇山の合掌造り集落」などの歴史的な町並みや集落、建造物	「おわら」・「むぎや」に代表される民謡や曳山などの民俗芸能	高岡銅器・漆器、井波彫刻などの伝統工芸	ますのすし、地酒、五箇山豆腐などの歴史・風土に培われた食文化	世界的な舞台芸術の拠点づくり	国際アマチュア演劇祭、こども演劇祭などの国際文化交流	舞踊、吹奏楽、演劇等、優秀な指導者のもと、国内外で活躍する芸術活動	近代美術館や水墨美術館、立山博物館などの特色ある美術館・博物館	万葉や立山信仰などの歴史にゆかりのある文芸活動やイベント	文化ホール、美術館などを拠点とする住民参加による文化活動	その他	わからない。特になし
全体		54.9	70.6	64.0	40.7	29.6	20.0	8.6	9.5	35.8	13.6	7.2	0.9	6.6
男	20歳代	32.3	54.8	51.6	19.4	45.2	9.7	3.2	6.5	22.6	6.5	-	-	3.2
	30歳代	23.7	68.4	68.4	39.5	50.0	5.3	-	7.9	15.8	5.3	-	-	7.9
	40歳代	45.5	63.6	61.4	43.2	27.3	22.7	11.4	9.1	36.4	11.4	4.5	2.3	4.5
	50歳代	48.3	71.7	51.7	33.3	21.7	23.3	11.7	11.7	35.0	16.7	13.3	-	6.7
	60歳代	62.3	73.6	67.9	45.3	22.6	17.0	5.7	9.4	39.6	17.0	7.5	3.8	5.7
	70歳以上	63.9	75.0	72.2	63.9	30.6	30.6	13.9	13.9	47.2	19.4	16.7	-	8.3
女	20歳代	48.6	70.3	78.4	32.4	21.6	10.8	5.4	5.4	27.0	16.2	2.7	2.7	5.4
	30歳代	43.3	78.3	66.7	38.3	38.3	23.3	8.3	3.3	16.7	13.3	6.7	1.7	5.0
	40歳代	51.9	81.5	59.3	29.6	20.4	16.7	9.3	11.1	29.6	3.7	3.7	-	7.4
	50歳代	58.7	68.0	74.7	38.7	33.3	20.0	8.0	10.7	42.7	16.0	8.0	-	5.3
	60歳代	71.7	71.7	53.3	46.7	30.0	33.3	11.7	18.3	53.3	16.7	10.0	1.7	6.7
	70歳以上	81.3	62.5	66.7	64.6	25.0	22.9	8.3	6.3	50.0	14.6	6.3	-	14.6

ウ 社会生活基本調査（総務省）

総務省の社会生活基本調査（平成13年）により、人口当たりの行動者数を他県と比較すると、茶道では全国第1位、邦楽は第6位、華道は第7位、美術鑑賞は第8位と極めて高位にあり、さらに、クラシック等音楽会の鑑賞は第15位、演芸・演劇・舞踊鑑賞は第16位と上位に位置しており、県民の文化活動は全国的に見ても高い水準にある。

一方、パチンコ（25位）、テレビゲーム（28位）、カラオケ（40位）など娯楽的なものは、低位にある。

表 7 社会生活基本調査 (H13) より作成 人口当たりの行動者数の本県順位

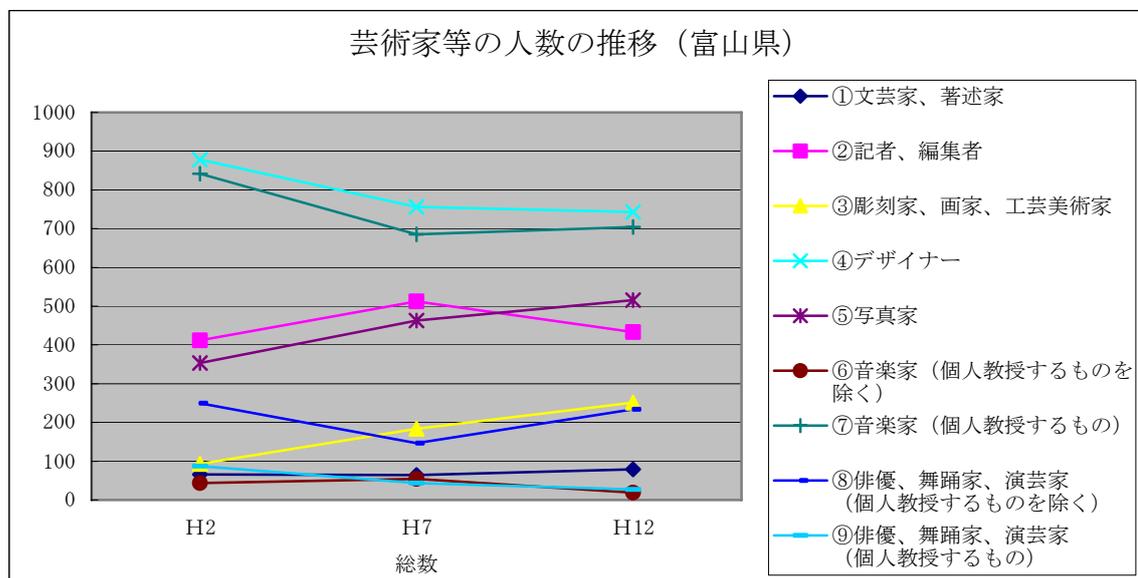
	全国順位		全国順位
スポーツ観覧	23位	和裁・洋裁	42位
美術観賞	8位	編物・手芸	29位
演芸・演劇・舞踊観賞	16位	料理・菓子作り	42位
映画鑑賞	18位	園芸・ガーデニング	34位
音楽会等クラシック	15位	日曜大工	43位
音楽会等ポピュラー	22位	読書	29位
楽器の演奏	29位	パチンコ	25位
邦楽	6位	テレビゲーム	28位
華道	7位	カラオケ	40位
茶道	1位		

総務省

エ 芸術に関する各種統計

総務省の国勢調査によると、本県の芸術家等の人数の推移は、グラフ5のとおりであり、デザイナー(④)、音楽家(⑥+⑦)はそれぞれ800人前後で推移している。

グラフ 5 芸術家等の人数の推移 (富山県)



総務省

特定サービス産業調査によると、映画館入場者数が平成3年から10年間で倍増している。

表8 映画館入場者数の推移（特定サービス産業調査）

(単位：人)

	平成3年	平成6年	平成9年	平成13年
映画館入場者数	595,578	699,089	1,036,987	1,349,183

経済産業省

(2) 芸術各分野

ア 美術

木彫刻、高岡銅器、漆器等の伝統工芸に根ざしながら、新たな美術の創作を志向する造形作家等のレベルは極めて高く、人間国宝、芸術院賞受賞作家をはじめとする多数の作家を輩出している。

絵画、写真などを愛好する者も多く、自ら創造する意欲も高い。

61回目を迎える県美術展など、公募展が多数企画され、県民の美術展等の鑑賞機会も多く、幅広い美術活動を行う人口を生み出している。その中から全国的レベルの作家が生まれ、プロからアマまで幅広く美術に関わる土壌が形成されている。

書道は、児童から高齢者まで幅広い参加人口を持ち、全国的な活動を行うグループや作家が活躍している。

デザインは、高岡を中心に、県総合デザインセンターなども協力して、デザインの商品化が進められている。「デザインウエーブ」や「工芸都市高岡クラフトコンペ」など全国展開のデザインコンペティションが実施され、プロダクト部門やクラフト部門のデザイナーの登竜門となっているなど、全国へ新たなデザインの波を起こしている。また、県デザイン協会会員を中心とする作家の中には、世界的なデザインコンクールでの受賞者もいる。さらに、県立近代美術館の世界ポスタートリエンナーレトヤマにも出品するなど活躍している。

ガラス造形では、富山ガラス造形研究所の教員、卒業生を中心にガラス作家が増え、ガラスの公募展も開催されるようになっている。

県民の美術に対する学習熱は高く、鑑賞者も多く、ホールにおけるにぎわいを作り出すとともに、町並みや空き施設、商店街での美術作品展示を通じて地域のにぎわい創出にも貢献している。

美術団体による会派を超えた文化交流、国際交流は特筆される。一方、立体造形、CGなど新しい美術の動向に対応した取組みが今後の課題である。

イ 音楽

学校音楽活動では、吹奏楽が盛んであり、常に全国コンクールなどで優秀な成績を収めるとともに、国際大会でも受賞しており、そのことが県外で活躍する優れた音楽家を育てることにつながっている。

しかし、学校音楽活動では、指導者が代わると活動レベルが急激に低下することもあるため、指導の継続性を図るとともに新たな指導者の育成が必要である。

さらに、音楽の専門教育では、呉羽高校の音楽コースや民間の音楽教室、旧洗足学園魚津短期大学や桐朋学園等があり、そこで学んだ卒業生の中から、プロの音楽家が次々と輩出され、国内外で活躍している。本県出身・本県在住の演奏家の協力により、県内各地での出前公演、県民の企画による音楽事業、古民家での演奏会なども行われている。

また、アマチュアの合唱人口も多いなど、アマチュアの音楽活動は盛んである。

地域では、福野文化創造センター（ヘリオス）を拠点としたスチールドラムのように、国際イベントの中から生まれた音楽活動や、地域でマンドリンやキーボードを取り入れた子どもたちへの指導を行う音楽活動などが展開されている。

県では、新進芸術家公演開催事業や高岡文化ホールのズームアップ郷土の音楽家公演、新人演奏会への支援など発表機会の確保に努めているところであるが、若手人材にさらにスポットライトを当て、県民に知られ、活躍の場が広がるような手立てが求められる。

ウ 演劇等

利賀芸術公園では、世界演劇祭「利賀フェスティバル」が毎年開催されており、世界有数の演劇祭として国際的な評価を得ている。県と（財）舞台芸術財団演劇人会議の共催によるこの演劇祭や、国際的な共同制作事業、舞台芸術の人材育成事業等に、国内外から多くの観客が訪れ、また第一線の舞台芸術家が活躍する場となっている。

地域で活動するアマチュア劇団等については、県内の演劇団体が中心となって開催してきた「富山国際アマチュア演劇祭」、「世界こども演劇祭」等は、県内芸術団体や県民のボランティアの力で毎回多彩に開催され、富山がアマチュア演劇における世界の中心として国際的に評価されている。

また、富山市民芸術創造センター、県民小劇場（オルビス）や県内各地のホール等を練習の場、活動拠点とする地域のアマチュア劇団等が公演を行い、また県内のアマチュア劇団の力を結集した市民劇なども公演されている。

ワークショップの開催や地域における子どもを対象とした演劇活動など、学校教育や子どもたちの表現力を養うための指導への貢献が期待されている。

全国的に活躍する本県出身の俳優が、富山の文化、方言、生活、伝統芸能などをその活躍を通して、強くアピールしているほか、全国的に活躍する落語家を中心に、県内にお笑いを根づかせる活動、取組みが進められている。

エ 洋 舞

全国大会で入賞するなど優れた実績を持つ団体や海外公演等で郷土芸能を生かした公演が高く評価されている団体などにより活発な活動が展開されている。

これらの団体は、子どもたちの指導に定評があり、海外のフェスティバルや県内での子どもたちの国際交流イベントの成功の原動力ともなっている。

また、父母が中心となってボランティア組織を結成し、子どもたちの文化活動を積極的に支援している。

子どもの成長に従い、学校での活動に制約され、継続して活動を続けることが困難になる例が多く、学校との連携とその活動の評価が課題である。

オ 文 芸

俳句、短歌、小説、詩等を愛好する人口も多く、多くの団体が組織され、同人誌等も刊行されている。

図書館の整備が進んでおり、人口当たりの蔵書数も全国第4位とトップクラスであるが、館外貸出数は第33位と低い。

県立図書館では、富山にゆかりのある近代文学資料を集めた洗足学園富山文庫や県人文庫などがあり、展示コーナーを設けて、県民が気軽に利用できる環境を整えている。富山市立図書館では、山田孝雄文庫等個人コレクションのコーナーを設けている。魚津市立図書館では、開館時間を夜9時まで延長することにより、以前より飛躍的に市民の利用の増加が見られる。

堀田善衛（芥川賞作家：高岡市出身）の記念施設である海風会館、ラフカディオ・ハーンの旧蔵書である富山大学ヘルン文庫、県立近代美術館における瀧口修三（詩人・美術評論家：富山市出身）に関する常設展示など、県内各地で地元ゆかりのある文学資料を収集している。

万葉歴史館や万葉朗唱の会による活動や、とやま文学賞、北日本文学賞など顕彰も行われている。しかし、愛好者の高齢化が進んでいる。

文学資料を全体的に網羅し、展示する仕組みや場（例えば文学館など）を望む声があり、図書館の活用などが課題である。

カ 生活文化

華道、茶道は、女性を中心に参加人数が極めて多く、定期的な茶会や華道展が各地で活発に開かれている。また、華道、茶道を愛好する人は、芸術を鑑賞する素養を備えた教養人として、美術展、舞台公演のよき鑑賞者ともなっている。

一方、生活の洋風化や、指導者及び一般の愛好者の高齢化が進んでいる。

キ 伝統芸能

能楽、詩吟剣舞、日本舞踊などの伝統芸能は、流派それぞれの普及活動によって隆盛となっている。能楽では、いわゆる準人間国宝（重要無形文化財保持団体の構成員）に2人が認定されており、日本舞踊や邦楽でも全国レベルで活躍する指導者がいる。しかし、高齢化が進んでいることから、愛好者の減少が懸念されている。

民謡民舞等は、他の地域との交流の中で変化を遂げつつも、地域に根ざし、祭り行事に伴う芸能として、大変盛んに行われている。

「おわら」、「麦や」、「こきりこ」など、富山を代表する郷土芸能として知られ、全国から多くの愛好者が訪れるものもある。

一方、獅子舞や曳山など多くの優れた伝統文化は、県内外でその価値が十分に知られていない。また、地域によっては、地域の郷土芸能を受け継ぐ担い手がいなくなり、消滅が危惧される行事もある。

ク 映画・アニメーション等の映像

ミニシアターやシネマコンプレックス、レンタルビデオ店の増加、デジタルテレビ放送の普及などにより、映画の鑑賞者は増えている。本県出身の映画監督により、県内を舞台とした映画が制作されているほか、映画ロケ地として地域の特性をアピールして、映画の制作、撮影に協力するフィルム・コミッションの活動も行われている。

本県出身の漫画家やアニメーション作家が活躍し、アニメキャラクターを地域づくりのシンボルとする取組みも行われている。

(3) 県民による文化活動

ア 県民芸術文化祭（県内文化団体の発表の場）

平成8年に本県で開催された国民文化祭の活動を県内で継承する事業として、県内文化団体の分野を越えた交流と協働による舞台や展示を行うフェスティバルを平成9年から開催している。文化団体、学校、地域団体が幅広く参加し、ボランティアが参画する、文化団体にとっては県内最大の祭典で、県民、県内文化団体等の大事な発表機会と鑑賞機会となっている。

これまで官民一体の事業として事務局を県に置き、出演団体の調整は県芸術文化協会を中心とする企画委員会が実施してきている。

県内4地区で順繰りに開催してきており、メイン行事のオープニングフェスティバルの舞台公演には、各分野の県内トップレベルの団体が出演している。また、生活文化展では、華道と美術による異分野の合同展示、県民への親しみやすい茶道の紹介、複数の分野の団体が出演する小舞台公演などが繰り広げられている。期間中の出演者は約1,500人、入場者は12,000人を数える。

また、市町村では地域文化フェスティバルとして特色ある事業が開催され、芸術団体も各分野毎に芸術祭を実施し、さらには協賛事業なども開催され、県民芸術文化祭は、文化の秋を代表する総合的なフェスティバルとなっている。

この県民芸術文化祭は、官民一体の取り組みが高く評価されているが、今後運営面において文化団体や地域のさらなる参画とともに、舞台や作品の新たな創造など、芸術文化の向上の契機となることが期待されるほか、出品料、入場料、協賛金など新たな運営財源の確保が課題である。

イ 県美術展（県内美術愛好家を対象とした公募展）

県展の名で親しまれ、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門の作品を審査・展示する県内最大級の総合美術コンクールで、作品のレベルは全国有数といわれる。

県内の美術家、愛好家からの出品作品、約1,500点から、県外審査員と県内審査員の合同審査により、展示数を約600点に絞るといった質の高い展覧会であり、入場者数は、巡回展も含め約1万人を数える。

また、他の多くの県内の美術展の頂点にある美術展として、市町村展、青少年美術展等の出品者の目標ともなっている。さらに、入賞者から全国で活躍するプロの美術家を多く輩出している。

県展は、県内美術団体、芸術文化団体を中心とする実行委員会が運営しており、審査の厳正と公正さの確保、厳格な展示構成が図られ、優れた作品展示となっている。

この県展は、県内で最も優れた作品が多く集まる美術展として、流派、会派を越えて美術家が参加する美術展であるため、審査方法、展示等に要望と期待が大きい。

近年、高齢化と生涯学習の進展により、高齢者が生きがい活動で製作して出品する美術作品が増えている一方、若い層の出品が減少する傾向にあり、新たな美術の息吹を展示、審査にいかに関与するかが課題である。

これまで、事務局運営は県主体で行われてきたが、経験、実績を重ねた芸術団体が事務局の中心となり、審査、展示等に伴う新たな課題に柔軟に取り組む体制づくりが取り組まれている。

さらに、入場料、民間からの協賛金等運営財源や展示施設の確保の工夫も求められる。

また、こうした新たな課題に対応するため、新たな美術の息吹を取り込み、県民の参加と交流を目的とする新しい美術展の開催に取り組んでいる。

ウ (社) 富山県芸術文化協会の活動

県内各分野の芸術団体の連盟組織により構成される(社)富山県芸術文化協会は、毎年数多くの文化事業を自ら開催し、異分野間の交流を推進し、文化団体が文化事業のプロデュースを自ら手がける先進的な活動を行うなど、全国的に見てもトップレベルの活動を繰り広げている。

また、芸術文化協会では、年々国際文化交流が活発となり、ハンガリー、中国、韓国の地域文化団体と友好提携を締結し、チェコの芸術大学との交流も進めており、派遣、招聘など、事業の展開を支える大きな役割を担っている。

さらに、過去7回、本県で開催され、20カ国以上、約500人の海外からの演劇関係者、子どもたちを集めた「国際アマチュア演劇祭」、「世界こども演劇祭」等の開催においても中心となっている。

国際交流事業も含め、芸術文化協会のような文化団体がこれほど多くの事業を自ら展開する例は、他県になく、県内のホール等での多様な文化事業を展開する役割も果たしてきている。

芸術文化協会は、県内の優れた芸術家、団体が中心となり、県内での県民への芸術鑑賞の提供と指導、芸術文化の創造、優れた芸術文化の交流など大きな役割を果たしてきた。

また、熱意のある執行部、団体の献身的な努力により活動が支えられており、芸術性に優れた活動を中心に、熱心な会員等の主導により事業を展開しているが、参加していない団体への働きかけが望まれる。

また、芸術文化協会には地域の文化団体への指導的役割も期待される。

芸術文化協会の事業の多くは、県補助等に半分程度依存しており、今後、新たな財源の確保、事業経営の努力が期待される。

エ その他の事業

(ア) 日展等全国巡回展

県内美術界で、日展に参加する美術家は、彫刻（日本彫刻会）、工芸（現代工芸、新工芸、日工会等）を中心に多く、全国組織の理事、評議員等を務める役員もおり、県内美術界でも指導的な役割を果たしている。

日展富山展は、全国レベルの質の高い作品が展示されていることから、多くの入場者があるなど人気がある。

このほか、県民会館が自主文化事業として、院展ほか主要な会派の美術展の全国巡回展を開催しているほか、伝統工芸展、光風会展、日彫展、現代工芸美術展、新工芸展、二科展等の全国巡回展、金沢美術工芸大学出身者によるけやき展などが開催されている。

また、県内美術団体、教室等の作品展が、県民会館、高岡文化ホール等のギャラリーを中心に数多く開催されている。

(イ) 第九交響曲演奏会

毎年末に開催される第九交響曲演奏会は、高校生、社会人、県内合唱団体など、多くの愛好者が参加し、県民参加の合唱公演として冬の風物詩となっている。

また、砺波市、黒部市でも、地域の合唱団体が中心となり、地元出身のソリスト等を招いて第九演奏会が開催されることがある。

合唱は、公募により、期間をかけて練習に取り組まれているが、普段訓練していない参加者が増えるほど、音楽性に課題が増し、日頃からの指導事業の充実と指導者の確保が課題となる。

(ウ) 合唱コンクール等

近年、合唱コンクールの全国大会での本県団体の成績は必ずしも上位を獲得

できなくなっているため、質の高い指導事業等の実施が課題である。

おおかさんコーラス全国大会、合唱コンクールブロック大会、全国童謡・唱歌サミットなどの広域の大会が、本県において、民間団体の力で開催されている。

また、県芸術文化協会を通じて、県外、国外から優れた団体を招き、公演を開催し、交流している。

オ 芸術団体等の指導事業

(ア) 芸術文化指導者招へい事業

若手人材などの育成のため、オーケストラ、吹奏楽、合唱、洋舞、演劇、日本舞踊、邦楽の7分野で、県芸術文化協会をはじめ県内芸術関係の指導者、芸術を学ぶ子どもたち、一般から募集した芸術を愛好する県民などを対象として、国内外から招へいした指導者により指導・助言を行っている。当初は音楽分野中心であったが、その後舞台芸術分野にも拡大し、事業実施にあたっては、年間を通じた事業として展開している。

この事業で、チェコ、ハンガリーなどから一流の指導者を招へいし、舞踊等で優れた公演や作品制作などの成果をあげている。

指導・助言は、主として練習専用施設である富山市民芸術創造センターで開催されているが、今後、県立文化ホールの活用や各地域の指導者への成果の還元などが期待される。

(イ) 芸術文化アドバイザー事業

県内各地区において、地域における指導事業実施の要望が強かったことから、県内外の芸術文化指導者を派遣する制度を設けている。このことにより、指導者が不在の地区でも、コンクール、発表などに向け、より高いレベルの指導を受けることが可能となっている。

2 文化施設

(1) 文化ホール

文化ホールでは、県民に多く利用され、活用されて、親しまれる施設として、文化に関する多様なニーズに応じたサービスが提供されており、県民の文化活動の拠

点としての役割が期待される。

県内の文化ホールは、地域の多様な利用目的に応じて運営されているが、ホールの特性に応じた文化事業の提供、県民との連携による県民の文化活動の創造の場としての役割も期待される。

文部科学省社会教育調査(H14)によると県内の文化ホールの数は(客席数300席以上)28館で、人口当たり(百万人当り25.0館)で全国第5位と全国トップレベルに整備され、芸術文化活動の基盤は概ね整備されている。

ハード面での整備が進んできていることから、今後、ソフト面を充実させることに重点を置き、文化ホールが地域の文化活動の拠点として特色ある活動を行っていく必要がある。

県立文化ホールの利用率は60%強で推移し、全国平均57.6%(公立文化施設協会調H14)と比べると高い利用率となっている。

市町村立文化ホールを含む公立文化ホールの自主文化事業数は、一館当たり9.2件で、全国平均12.3件から見るとやや少ない(H16;全国公立文化施設協会調)が、県民主体の活動や興行主による施設の利用は活発である。

また、各公立文化ホールが取り組む自主文化事業に占める県内団体が出演する事業の割合は27.7%(H17;県公立文化施設協議会)であり、今後は県内団体が参加する事業の一層の展開が期待される。

民間企業や他の助成を受けて冠公演を実施する館の割合は85.7%であり、全国平均28.5%と比べて高く、全国第1位である(H16;全国公立文化施設協会調)。また、県が支援する文化ホールネットワーク事業や各種の助成団体の支援を受けて行う事業も多い。

自主文化事業数が10件以上ある公立文化ホールは、黒部市国際文化センター(コラーレ)、新川文化ホール(ミラージュホール)、入善町民会館(コスモホール)など事業実施館28館中13館しかなく、3件以下のホールも5館ある(H16;全国公立文化施設協会調)など、特色ある運営が活発に行われている文化ホールがある一方で、活動の拠点としての運営や活用に課題のあるところもある。

公立文化ホールでは、県公立文化施設協議会等のネットワークを通じた情報交換や連携等により、文化活動の拠点機能をさらに向上させていくことが求められている。

コンサートや美術展等の鑑賞の機会は各公立文化ホールで数多く開催されているが、県民が自ら主体的に文化活動を行うために必要な指導者の状況、サークル・グループの活動状況、文化施設の利用状況などの情報を容易に入手できるようにする

ことが今後の課題である。

ア 県立ホール事業等の実績

県立文化ホールが実施する自主文化事業は、県立館 5 施設で計37事業、参加者数 26,891人 (H17) となっている。

公立文化ホールをネットワーク化して共同開催する公演は、県立館 2施設が 2事業を開催し、参加は812人 (H17) を数える。市町村立文化ホールを含む県公立文化施設協議会全体では、16館で10事業23公演が開催され、鑑賞者数は8,676人 (H17) を数える。

企業の支援を受けて開催する企業メセナ文化ホール事業は、1施設で1事業を開催し、参加は526人 (H17) を数える。

県立文化ホールの利用を促進するため、子どもと高齢者は 3 割、空きホールの活用については 3 割 (H15 から)、練習のための利用については 7 割 (H17 から) の利用料を減免する制度を平成 15 年から 17 年にかけて導入した。

施設の運営を弾力的なものとし、利用の促進を図るため、平成 16 年度には、冷暖房料の廃止、附属設備の使用料見直しを行うとともに、開館時間を午後 10 時まで延長し、時間単位の料金設定をするなどの見直しを行った。

県立文化ホールでは、平成 18 年 4 月から指定管理者制度を導入し、施設管理や事業のコストの削減を図るとともに、優れた専門性と創意工夫によるサービスの向上、特色ある事業の運営などが期待されている。

県立文化ホールや、ホールを管理する県文化振興財団には、市町村ホールとの連携や、地域の文化活動をコーディネートする役割も求められる。

イ 文化ホールのソフト事業への主な支援

公立文化ホールにおけるソフト事業の企画運営能力を向上するため、県では以下の事業にも補助している。

(ア) 文化ホールネットワーク事業

公立文化ホールが連携して取り組む公演事業の企画・実施や共同の広報、ホームページの作成等

(イ) 出前公演等開催事業

文化ホールが実施する事業の出演者が学校等に出前して行う普及事業

(ウ) 企業メセナ文化ホール公演事業

企業の支援を受けて文化ホールが主催し、県民に提供する公演事業

(エ) 文化ボランティア養成事業

文化ホールのボランティアの募集、研修等を共同で行う事業

ウ 県内市町村立ホール等の現状

県内公立文化ホールが加盟する富山県公立文化施設協議会が昭和 41 年に設立され、ホール間の連携による事業の開催、催事情報を掲載したホームページの設置と各館とのリンクによる情報発信、各文化ホール職員の研修と交流、連携事業の企画などを共同で行い、加盟館の職員の資質の向上やソフトの充実に寄与している。

公立文化ホールで自主文化事業数が年間 10 件以上あるホールは、市町村ホールの事業実施館 22 館中で 12 館にのぼる (H16; 全国公立文化施設協会調)。

住民は、おおむね居住地の文化ホールを多く利用する傾向があるため、地域住民にとって、各地の文化ホールの設置は、住民の文化に関する行動に大きな影響を与えている。

施設環境が十分でない文化ホールや、予算、人口規模が小さく、職員数も少なく、事業数の少ない文化ホールもあるが、地域住民にとっては、文化活動を支える場となるため、運営の工夫や他文化ホールとの連携、住民等の参画、団体の協力による事業の展開が期待される。

また、昭和 30 年代から 40 年代前半に建設された公立文化ホールについては、講演会を想定した多目的利用可能な会館として建設されたことから、舞台袖や照明、音響などの舞台機構も十分でないため、本格的な舞台公演や音楽会の開催には不向きであり、施設の老朽化や合併による市町村内の複数館の位置付けなどと相まって、今後の活用の方向が大きな課題となる。

利用の少ない施設においては、発表だけでなく、住民の文化活動の練習の場として活用される運営の工夫も求められる。

(2) 美術館・博物館

県内の登録美術館・博物館数は 32 館、百万人当たりでは 29.5 館で全国第 2 位 (H14 文部科学省社会教育調査) と全国トップレベルにある。

施設数とともに、時代の新しい潮流を紹介する県立近代美術館、水墨を名前に冠し

たユニークな県水墨美術館、立山の自然と文化を研究、紹介する立山博物館、立山カルデラ砂防博物館をはじめ、絵本の射水市大島絵本館、高岡の金工など伝統工芸を発信する高岡市美術館、地域の高い文化性を背景とした砺波市美術館、松村外次郎記念庄川美術館、南砺市立福光美術館、富山の自然の神秘を科学する富山市科学文化センターや魚津埋没林博物館など特色ある施設に優れている。

埋蔵文化財センターは、先史、古代、中世、近世に至る発掘と研究の成果を展示するもので、埋蔵文化財から本県の歴史を明らかにしている。中世、近世の立山振興の歴史を研究、展示する立山博物館、越中の古代、万葉集の資料の収集、調査、研究、展示を行う高岡市万葉歴史館と併せ、本県の歴史の研究、展示拠点となっている。また、近世、近代の売薬用具が富山民俗民芸村で展示されているほか、薬種商家を保存した金岡邸が県民会館分館として公開されている。

県内外の人々にとってさらに魅力ある展示、イベント等により、多くの人々に親しまれるとともに、優れた文化を創造、発信する施設、県内外の人々が交流する施設として期待される。

さらに、県内各地区には、それぞれの地域に密着した自然、歴史、文化等を紹介する市町村立や私立の美術館、博物館が多数あり、広く県民から親しまれている。

県博物館協会では県内の博物館相互の提携をとり、研修会の開催、会報の発行、加盟館の催事のお知らせ等、博物館事業の普及発展に努めている。また、同協会のホームページは5カ国語で広報活動に努めている。

富山市内では、博物館・美術館を巡回するミュージアムバスが平成17年3月から運行され、平成17年度の1年間で、15,974人の利用者（305日運行、1日平均52.4人）があった。更にPRに努め利用者の増大を図る必要がある。

ア 県立美術館・博物館の現状

県立美術館・博物館においては、平成18年4月から、施設の保守管理等の管理部門について、指定管理者制度を導入し、事業者による自主文化事業を展開するとともに、県民サービスの向上と効率的な運営を図っていくこととしている。

なお、展覧会の企画実施等は、活動の積み重ねが必要であり、専門的知識と一定の経験を有する学芸員等が中・長期的な展望のもとに行う必要があることなどから、学芸部門は、県直営としている。

子どもや障害者の通年無料化（H17から）を行うなど、県民サービスの向上に努めている。

展示等の案内を行うボランティアを養成するとともに、ボランティアによる常

設展示の解説等を実施している。

芸術講演会、ミニコンサートなどの自主文化事業を行うとともに、ボランティアや友の会との共同事業を実施してきている。

平成17年度の観覧者数は、3館で33万人となっており、概ね30万人台で推移している。なお、近代美術館については、企画展・常設展以外にも、平成13年に太閤山ランド内に「ふるさとギャラリー」を開設、同14年には館内にキッズコーナーを設置するなど、サービスの向上に努めている（平成17年度の企画展・常設展以外の利用者は6万人）。今後とも魅力ある企画展示、教育普及活動など、ソフト面を充実させることを通じて観覧者の増加を図っていく必要があり、効果的な広報宣伝等の工夫が必要である。

表9 県立美術館の観覧者数の推移

単位：人

	H12(2000)	H13(2001)	H14(2002)	H15(2003)	H16(2004)	H17(2005)
近代美術館	72,343	88,383	92,541	93,689	92,851	87,759
水墨美術館	185,429	199,797	221,545	141,755	136,978	181,526
立山博物館	80,998	71,031	69,471	74,703	63,335	64,651
合計	338,770	359,211	383,557	310,147	293,164	333,936

(3) 文化施設の支援者、ボランティア

公立文化ホールでは、文化ボランティアの養成、ホールの運営サポート、友の会の組織づくりを行っている。文化ボランティア養成事業は、県公立文化施設協議会加盟34館のうち21館で実施されており、この結果、平成18年3月現在でボランティア登録は18館で19組織469人を数え、設置率は53%に達する。また、友の会等のサポーター組織は、17館で9,378人が登録されている（H17）。

博物館のボランティア及び友の会等の会員は、登録博物館及び相当施設34館のうち、21館で3,142人となっている。

文化施設の支援者、支援組織は定着しているが、今後さらに、ホールの企画運営に参画するなど活動の活性化が必要である。

芸術文化活動に意欲のある企業等の活力と資金の提供を受け、企業等と公立文化ホールが連携、協力して芸術文化公演等を開催する企業メセナ文化ホール事業を実施し

ている。

企業の文化支援アンケート調査によれば、回答企業の半数以上が地域の文化行事への寄付をしていると答えている。文化分野における社会的貢献を目的として、支援すると回答する企業が多い。

団塊の世代の大量退職により、人々が生きがいや充実感を求めて文化活動や文化支援に参加することのできる仕組みを広げることが課題である。

3 高齢者、障害者の文化への参加

県内各地で、高齢者、障害者等が参加する茶会、公演などが開催されているほか、富山ねんりん美術展や富山県障害者絵画展も開催されている。

文化ホールや美術館、博物館に足を運びにくい人たちへの芸術鑑賞、体験機会の拡充が望まれる。

障害者が中心となる劇団による演劇や、音楽等で活躍する人々がいる。

高齢者や障害者の公演等に係る県立文化ホール使用料の減免、県立美術館等における障害者の通年無料化を実施している。

文化施設において障害者の鑑賞、発表をサポートするボランティアの拡充が望まれる。

トイレ、スロープ、エレベーターの表示の工夫をはじめ、文化ホールのバリアフリー化など、高齢者や障害者の利用に配慮した施設の整備が進んでいるが、改善が望まれる施設もある。

高齢化時代において、文化活動への参加を人生の生きがいとする社会の仕組みや方策に一層取り組むことが課題となる。

4 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動

子どもたちや青少年には、ボランティア意識の高まり、高度情報技術への対応、高齢者等との交流などが見られるが、少子高齢化や核家族化の進行、価値観の多様化など激しく変化する現代社会において、直接体験・感動体験の不足や人間関係の希薄化

などが懸念される。

様々な文化との出会いや交流、創造活動などを通して、次世代を担う子どもたち、青少年が豊かな感性と表現力をもった社会人となるよう育まれることが重要である。そのためには、学校、家庭や地域社会において、子どもたち、青少年が文化活動に対して興味が湧くような環境づくりを工夫することが求められる。

学校教育と社会教育の連携が求められており、学校による博物館の利用促進や児童・生徒を対象にした講座や教室の開催など、教育普及活動の一層の充実を図っていく必要がある、広報活動をさらに工夫することが求められる。

(1) 子どもの文化活動への支援

「世界こども演劇祭」やこどもミュージカル事業などが開催され、舞台芸術の公演、絵画展、書道展など世界や全国を舞台に活躍し、経験を積んだ子どもが増えており、文化交流を通じた世界との友好、平和への貢献が期待される。

ア 指導事業

アドバイザーの派遣や指導者招へい事業を通じて、子どもたちの文化体験や創造の促進を図っている。

- ・ 芸術文化アドバイザー派遣事業
- ・ 芸術文化指導者招へい事業
- ・ 学校への芸術家等派遣事業（文化庁事業）
 地元出身の芸術家を派遣し実演を含めた講演
- ・ 文化体験プログラム支援事業（文部科学省事業）
 地域文化を体験する事業のプログラム策定と支援
- ・ 「文化体験による創造のまち支援」事業（文化庁事業）
 地域のこどもたちの文化活動に対する創造、人材育成事業

イ 子どもたちによる芸術文化の創造の支援

- ・ こども芸術文化活動支援事業（H17～）
 （県民提案型の子ども向け事業を支援）
- ・ こども舞台芸術創造事業
- ・ 県こどもフェスティバル、県青少年美術展、県青少年音楽コンクールなどの事業への補助

ウ 世界こども演劇祭等国際交流事業への支援

(ア) 世界こども演劇祭等の開催

- ・国際こども演劇祭 平成 8 (1996) 年
- ・第6回世界こども演劇祭 平成12 (2000) 年
- ・アジア太平洋こども演劇祭 平成16 (2004) 年

(イ) 世界こども演劇祭への派遣

ドイツ、トルコ等で開催された世界大会へ6回派遣

(2) 学校教育における取組み

ア 教科における取組み

小・中学校においては、学校の芸術関係の教科で、表現や鑑賞の活動を通して、芸術を愛好する心情と感性を育てている。郷土の民謡や日本の伝統的な音楽の鑑賞や演奏、美術品の鑑賞や制作、世界の芸術・文化について学んでいる。

高等学校においては、表現や鑑賞など幅広い活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心情と感性を育て、諸能力を伸ばし、豊かな情操を養っている。また、芸術活動、進路学習の一環として美術館等の見学を行っている。郷土文学、郷土史、邦楽、陶芸、工芸、刻字など、学校が設定する科目として設け、学ぶこともある。

小・中・高の美術関係の教科書には、県立近代美術館が収蔵する作家が多く掲載されていることから、本物に触れる機会を充実させることが必要である。

今後、本県の芸術・伝統文化についてのカリキュラムの研究開発や副読本の作成、教員の自主研修の機会の充実、当該分野の講師を学校や研修会へ派遣することなどが必要である。

イ 総合的な学習の時間等における取組み

総合的な学習の時間においては、地域や学校、子どもの実態に応じて、郷土の文化・歴史などの調査、郷土芸能の学習、地域行事への参加等に取り組んでいる。

国及び県では、学校教育の一環として、総合的な学習の時間に本物の舞台芸術体験事業、子どものための映画鑑賞普及事業、学校への芸術家等派遣事業、学校巡回劇場、芸術体験（鑑賞）事業などを実施している。国及び県の施策と市町村、学校の施策の整理が必要であるが、文化庁の採択によるため、地域的にアンバランスがあり、機会の均等化を図ることが必要となる。

- ・本物の舞台芸術体験事業 公立文化施設公演
ホールにおける、公演鑑賞と舞台裏見学などの体験学習（ワークショップ）
- ・本物の舞台芸術体験事業 学校公演
総合的な学習の時間、学校行事等を利用して、学校において実施する公演鑑賞とワークショップ
- ・学校巡回劇場
日本青少年文化センターの派遣による鑑賞事業
- ・子どものための映画鑑賞普及事業
公立文化施設において映画鑑賞機会の提供

ウ 学校部活動等の高校文化連盟、中学校文化連盟を通じた取組みへの支援

文化部活動は、高校では6人に1人が文化部に所属している。少子化に伴う生徒と指導教員の減少により、活動が困難な部もあり、中高の文化連盟がそれぞれ交流しながら、部活動の発表を行っているが、連盟への加入率は伸び悩む傾向がある。

一方、吹奏楽、合唱など、全国大会に団体出場し優秀な成績を収めている団体も多いことから、全国大会等への参加補助を行うほか、生徒の活動を、広く県民に紹介するとともに、顕彰制度など地道な活動をしている生徒が意欲を持って活動に取り組むための仕組みを検討する必要がある。

また、地域における受け皿を整備し、指導補助を行うボランティアを養成するなど、学校部活動の補完に配慮し、学校で開設できない分野の整備を進めることが必要であり、学校、地域が連携し、児童・生徒の適性に応じた部活動に自発的、自主的に取り組むための環境整備が必要である。

(3) 美術館、博物館等における取組み

ア 美術館等の観覧料の無料化、ホール施設の使用料の減免

イ 県立美術館・博物館事業でのソフト事業

(ア) 近代美術館

- ・トライアート（企画展を毎年開催）
学校で制作した作品の発表と県内若手作家によるワークショップの開催
- ・学校一日美術館
収蔵作品を学校で展示し、学芸員が解説

- ・ミュージアム創造広場
親子で作品鑑賞と造形活動を体験

(イ) 水墨美術館

- ・水墨画ワークショップ（年1回）
子どもの墨画体験、制作、展示

(ウ) 立山博物館

- ・たてはく探検隊（年1回）
- ・立山の自然、歴史、信仰のクイズラリー

(エ) 埋蔵文化財センター

- ・子ども考古学事業
学校への考古学出前講座
- ・ふるさと考古学教室
親子で土器作りや火おこし体験
- ・考古学キッズ
考古学の体験教室

5 世界への文化の発信

利賀芸術公園では、世界演劇祭利賀フェスティバルをはじめ、利賀演出家コンクール、BeSeTo 演劇祭などが開催され、入園者は毎年約2万人を数えている。「利賀サマー・アーツ・プログラム 2005」の中で、スズキ・メソッド・マスタークラス、中学生鑑賞教室、日本演劇千年計画<鈴木演劇塾>などの国際的な人材育成のための新しい事業の展開が始まった。今後、全国、世界への優れた文化の発信拠点として、より一層のプログラムの充実により発信力のアップへの取組みが求められる。

優秀な指導者のもと、富山県芸術文化協会が中心となって行ってきた演劇、舞踊、音楽、美術、生活文化をはじめとした活発な活動が、ハンガリー、チェコ、環日本海諸国の優れた文化団体との交流を継続、発展させている。

富山国際アマチュア演劇祭、世界こども演劇祭など、過去7回の大規模な演劇祭が開催され、演劇、舞踊などの舞台芸術での交流、団体、学校、子どもの文化交流が繰り広げられているが、全国的に十分周知されていない。

(1) 文化交流の促進のための支援策

- ・ 県芸術祭など県芸術文化協会事業への補助を通じた分野間の交流の促進
- ・ 県民芸術文化祭生活文化展の開催
- ・ 国民文化祭参加団体助成

(2) 国際交流の推進のための支援策

- ・ 環日本海諸国との文化交流への支援
- ・ 県芸術文化協会による国際交流支援（県芸術文化振興基金）
- ・ 富山国際アマチュア演劇祭補助（7回のアマチュア演劇祭、世界こども演劇祭を開催）
- ・ いなみ国際木彫刻キャンプ開催補助（4回の滞在型美術製作の公開事業）
- ・ 県立近代美術館における「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」の開催
- ・ 水墨美術館による水墨画の国際公募事業の開催
- ・ 利賀での BeSeTo 演劇などの開催補助（中国、韓国、日本の演出家の交流公演）
- ・ 日露文化フォーラムの開催
- ・ 世界野生生物映像祭（JWF）など国際交流事業の開催補助（世界の自然の映画放映）

6 伝統文化の掘り起こし、活用と発信

「おわら風の盆」、「麦や」、「こきりこ」などの郷土芸能や祭り行事、世界遺産五箇山の合掌造り集落や国宝瑞龍寺、国指定重要文化財勝興寺等の歴史的建造物など、すぐれた文化資源があり、県外から多くの人々を集め、魅了しているが、県民にはその価値が十分知られていない。県内にはさらに多くの魅力ある文化資源があり、それらを文化の宝ものとして発掘し、評価し、国内外に発信していくことが課題となる。このため、とやま文化財百選の選定等を進めている。

(1) 郷土の歴史

ア 郷土の歴史の現状

(ア) 桜町遺跡（小矢部市）、境A遺跡（朝日町）、柳田布尾山古墳（氷見市）

桜町遺跡からは、縄文時代の高度な建築技術を示す部材やコゴミ、クルミな

ど縄文人の食生活を解明する上で貴重な遺物が出土し、住民による遺跡解説ボランティアが誕生している。

境A遺跡からは、高度なヒスイ加工技術を証明する玉や加工道具が出土し、これは縄文時代の石製品加工技術の全容を知りうる国内唯一の資料として国指定重要文化財となっている。

大規模な前方後方墳である氷見市の柳田布尾山古墳は日本海側の前方後方墳としては最大である。

(イ) 高岡の万葉

奈良時代に大伴家持が越中国司として赴任中に詠んだ多くの歌が、万葉集に収録され、当時の風景や生活の様子を今に伝えるとともに、郷土の誇りとなっている。

(ウ) 立山

立山は古代に開山されて以来、霊山として多くの修験者や参詣者をはじめ、成人儀礼、女人救済の布橋灌頂会などにより、賑わってきたが、現在でも国内外から多くの観光客が訪れている。

立山信仰に関する一連の遺物が一括して富山県立山博物館で公開され、また、江戸時代の宿泊施設「立山室堂」は国内最高所の国指定重要文化財となっている。同じく重要文化財である雄山神社前立社壇本殿は、室町時代中期の建築物で、神社本殿としては北陸で最大規模である。

さらに、中世の立山信仰を知る上で重要な上市町黒川遺跡群が国の史跡に指定された。

(エ) 浄土真宗

中世に蓮如上人により布教され広まった浄土真宗は、現在の人々の風俗慣習に影響を及ぼしている。

五箇山に存在する道場は浄土真宗の布教のための古い寺院の様式を伝えるものであり、全国でこの地域のみ現存するとともに、併せて報恩講や山里の精進料理などの貴重な食文化も伝承されている。

(オ) 中世城館

中世から近世にかけて活躍した越中の土着豪族は、主に小高く展望のよい丘

陵に山城を構えたが、現在、城跡の構造形式がよく分かる砺波市の増山城跡など 400 箇所を越える中世城館が確認されている。

国指定史跡である安田城跡は曲輪の構成が良好に保存されており、富山城や高岡城も堀と石垣による構造形式を残している。

(カ) 富山売薬

富山藩主前田正甫公により奨励された富山売薬は、江戸時代に全国規模の販売網と「先用後利」という販売様式を確立し、現在の富山県の製薬業の基礎を築いた。

富山の売薬用具として、製薬と売薬に関する資料が一括して、国指定重要文化財に指定され、富山市民俗民芸村で公開されている。

(キ) 北前船や定置網などによる海の文化

江戸時代の後期から明治時代に栄えた北前船により、昆布やニシンなどの食材を活かした食文化が定着し、民謡などの文化が伝承された。

北前船廻船問屋の上質な建物や資料が水橋、東岩瀬、新湊や伏木などに現存する。

また、定置網は、富山湾が発祥の地のひとつとされ、その歴史は中世末までたどることができるが、明治から大正時代に改良が加えられ、「越中式落とし網（大敷網）」として漁業の活性化に貢献した。氷見市内には網元の豪壮な建物や、網蔵、舟小屋といった関連施設も現存する。

イ 郷土の歴史の課題

- ・ 県民が郷土の優れた遺産に触れ、その価値を学ぶ機会の確保が求められる。
- ・ 地域の歴史的魅力の情報発信が重要である。
- ・ 県民による歴史的遺産の積極的活用が求められる。

(2) 地域の伝統文化

ア 地域の伝統文化の現状

(ア) 祭礼行事

高岡御車山をはじめとする豪壮な曳山行事や、福野の夜高祭等の華やかな行燈行事などが、春祭り、夏祭り、秋祭りで地域住民により行われている。国指定重要無形民俗文化財である全国の曳山行事 25 件のうち 3 件（高岡御車山行

事、魚津タテモン行事、城端神明宮曳山行事)が本県の曳山である。

砺波市の出町子供歌舞伎曳山は、全国で7箇所しかない曳山の上で子どもが演じる浄瑠璃のひとつであり、子どもたちによる素朴な芸能形態を今に伝えている。

(イ) 民俗芸能

春祭りとお祭りでおられる獅子舞には、百足獅子、二人立獅子、行道獅子等多くの種類があり、県内の各地区で伝承される獅子舞の件数は約1,200件と全国で最多である。

富山市熊野神社、射水市加茂神社、黒部市法福寺でおられる稚児舞は、古来の姿そのまま保存伝承されている。

(ウ) 民謡民舞

越中おわら、麦や節、筑子唄など江戸時代から伝承される民謡が多く、おわら風の盆、麦や祭り、こきりこ祭りといった祭礼で唄と踊りが演じられている。

県内には約600件の民謡が伝承され、本県を代表する民謡民舞20件の保存団体で構成する富山県民謡民舞連盟により半世紀にわたる伝承活動が継続されている。

(エ) 年中行事

鰯分け神事(加茂神社)等の正月行事、ねつ送り(南砺市)等の稲作行事、ネブタ流し(滑川市・黒部市)等のネブタ行事、七夕流し(黒部市)等の七夕行事、オショウライ(富山市)等の盆行事などが脈々と保存伝承されている。

「滑川のネブタ流し」はネブタ行事(農作業の眠気払い)の国内南限であり、国指定重要無形民俗文化財となっている。

築山行事(高岡市・射水市)は曳山の初源形態を示すものとして、古来の姿のまま伝承されており、家々の一年の無病息災や五穀豊穰を祈念する行事が、社会環境の変遷に順応しながら保存伝承されている。

(オ) 風俗慣習

年神を祝福する南砺市利賀村の初午行事や、田の神を迎え入れる旧宇奈月町(黒部市)のおおべっさま迎え等が家々の行事として保存伝承されている。

イ 地域の伝統文化の課題

- ・ 曳山やその装飾品の保存修理技法の伝承が重要である。
- ・ 伝統芸能の後継者の確保が必要である。
- ・ 祭りや行事等につわる伝統文化の伝承者の確保と公開の充実を図るため、期日や会場の再検討や、運営の工夫が求められる。
- ・ 魅力的な伝統芸能や行事の情報発信が求められる。

(3) 先人の英知と技術

ア 先人の英知と技術の現状

(ア) 社寺建築

瑞龍寺は、仏殿をはじめとする 10 棟の建造物群が禅宗伽藍として完全に揃っている国内唯一の例である。また、加賀藩二代藩主である前田利長公の墓所があり、石製の三重基壇と墓標から成る高さ約 12m の巨大な構造物として威容を誇っている。さらに、瑞龍寺と利長公墓所は「八丁道」と呼ばれる参道で結ばれており、これらが一体となった景観や佇まいが当時の隆盛を今に伝え、地域の歴史を象徴するランドマークになっているとともに、観光資源としても役立っている。

勝興寺は 12 棟の建物から成る真宗伽藍が現存し、本堂の大きさは国内屈指の規模である。

このほか県内には、大規模な本堂等を有する善徳寺や瑞泉寺などの寺院建築、立山信仰の雄山神社や俱利伽羅合戦の護国八幡宮など由緒のある社寺建築が存在する。

瑞龍寺や勝興寺では、地域住民等による解説ボランティアが誕生し、活動を活発化させている。

(イ) 世界遺産五箇山の合掌造り集落等

大型木造民家の典型例である合掌造り建物が耕作地とともに生活の場として現存し、民家としては国内唯一の世界遺産に登録され、歴史的集落として国の史跡に、民家建築群として国の重要伝統的建造物群に選定されている。

五箇山の合掌造り集落には、背後に雪持ち林（雪崩防止用のブナの原生林）、江戸時代以来の往来、屋敷と耕作地を囲む石垣、中世から布教の施設であった道場、神社のうっそうとした社叢などがあり、日本の農村集落の原風景が、そのままの姿で保存されている。

五箇山は、長らく人里から離れた秘境の地であり、また、豪雪地帯であったことから、和紙等の生業、古くから唄い継がれる民謡、平家の落人伝説、報恩講などの宗教行事、山菜を用いた伝統的な食文化などが存在し、合掌造り集落独自の伝統文化として継承されている。

(ウ) 民家建築

県内には、浮田家住宅、佐伯家住宅、武田家住宅など豪壮な農家建築が多く存在し、とりわけ、富山市の内山邸の主屋は幕末の慶応年間に建てられたもので、土蔵や茶室など 14 棟もの建物が敷地に配される豪農の邸宅である。

町屋建築では、優れた意匠で良質な材が用いられたものが多く、北前船の廻船問屋であった富山市の旧森家住宅や土蔵造りである高岡市の菅野家住宅などが存在する。

(エ) 伝統的な町並み

商都・高岡を象徴する山町筋には、黒漆喰塗りと観音開きの土扉で造られた豪壮な土蔵造建物が建ち並び、国の重要伝統的建造物群に選定されている。高岡市では、吉久地区と金屋地区も格子戸のある伝統的な町屋が軒を連ねている。

和風の民家建築が建ち並び、歴史的な意匠で和やかな景観を醸し出している地区として県内には、富山市八尾町の諏訪町本通りや南砺市井波の八日町通りなどがある。

(オ) 伝統工芸

高岡市の鋳物産業は江戸時代に加賀藩により育成され、明治以降は銅器の美術工芸品が海外に輸出されるようになり、本県を代表する地場産業に成長した。高岡銅器の鋳金作家として大澤光民氏が、焼型鋳造の伝統に立脚した「鋳ぐるみ」技法を開拓し、平成 17 年に人間国宝に認定された。本県在住者として初の人間国宝は、亡くなられた金森映井智氏であり、平成元年に認定された。

南砺市の井波彫刻は、江戸時代に瑞泉寺の再建を契機として始められ、現在では欄間彫刻、置物彫刻など多様な木彫品が製作されている。井波彫刻の作家からは多くの日展入選者を輩出している。また、曳山・獅子の製作、修繕に携わる貴重な技術文化を保持している。

本県では、伝統的工芸品として高岡銅器、井波彫刻、高岡漆器、庄川挽物木地、越中和紙が指定されている。それらの生産額（平成 15 年度）は、平成 2

年度に比べ50%以下に減少しており、展示会の開催、新商品の開発など市場の拡大に取り組んでいる。また、井波木彫刻工芸高等職業訓練校などの職業能力開発施設において、木彫刻技能など伝統技能の伝承とともに後継者の育成が行われている。

イ 先人の英知と技術の課題

- ・大規模寺院や歴史的建造物の実態把握と評価が課題である。
- ・県内にある文化財の質の高さの情報発信が求められる。
- ・伝統工芸の保存・継承を図るため、優れた技術技法に裏打ちされた伝統的工芸品の魅力の再認識を促すとともに、技術・技能を持つ人材の高齢化に対応した後継者の育成が課題である。また、技術文化を保持する人材のネットワーク化も重要である。
- ・平成18年度から、高岡市が国の構造特別区域「ものづくり・デザイン人材育成特区」の認定を受け、小・中学校での授業で「ものづくり・デザイン科」を必修とし、地域の伝統産業の専門家や職人等と教員によるチームティーチングによる学習を行っている。

(4) 地域の景観

ア 地域の景観の現状

(ア) 自然景観

本県には立山連峰等の山岳景観、富山湾の眺望、広がりのある扇状地の景観など、豊かな自然により造られたダイナミックな自然景観が豊富にあり、富山の心象風景を形成している。

自然景観の国宝にあたる特別天然記念物は、黒部峡谷をはじめとする7件が本県に存在する。

(イ) 農村景観

砺波平野に代表されるように、扇状地平野一面の水田に屋敷林を伴う住居が点在する本県の散居村は、砺波平野や黒部川扇状地などに広がり、歴史的、文化的にも全国有数の農村景観である。また、特に散居景観を代表する砺波平野においては、「美しい農村景観全体が博物館」という思想のもと、保存啓発に係る地域活動の拠点施設を整備している。今後はその中核施設「となみ散居村ミュージアム」を中心として、地域と連携した保全啓発活動の実施や伝統文化

等地域資源の情報発信などを行うこととしている。

長坂の棚田（氷見市）や東種の棚田（上市町）など、県内の中山間地域には人々の営みによって形成された棚田が点在している。

福岡（高岡市）の菅笠の生産とスゲの栽培の伝統的生産を伝える^{すげた すげぼし}菅田と菅干、合掌造り家屋の葺き替え材料のカヤの育成の場として貴重な存在となった相倉（南砺市）の茅場と茅刈り風景、富山湾のブリ漁などのための大型定置網の「浮き」が連続する美しい景観が特徴の氷見市の大敷網や網蔵、舟小屋等の関連施設など、風土と生活に根ざした文化的な景観が各地に伝えられている。

（ウ）都市景観

本県には地域の人々によって守られ、育てられてきた歴史的な町並みが継承されているとともに、現代的な施設等の整備により新しい都市空間が形成されている。

諏訪町本通り（富山市八尾）では、高い地域住民の意識と、地元の大工棟梁や工務店で作る八匠の会などの努力により、石畳と町屋が調和し、おわら踊りが映える町並みとなっている。

八日町通り（南砺市井波）では、地域住民が景観づくり住民協定を締結するなどして、古い町並みと伝統産業の木彫りが一体となった通りとなっている。地区の寺院建築等で始まった木彫刻の伝統を有する地区として、木彫刻家の工房が集中し、伝統産業のみならず、日展で活躍する多くの芸術家を輩出している。

山町筋（高岡市）では、旧北陸道に沿う外壁を黒漆喰塗りとした土蔵造りの町屋が織り成す歴史的な町並みとなっており、平成12年12月には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

岩瀬大町・新川町通り（富山市）では、歴史的に価値のある家屋が数多く残っており、出格子にスムシコ（簀虫籠）等のある雰囲気のある通りとなっている。こうした家屋を地元住民等の手で維持・保全し、職人や陶芸家、ガラス作家らが活動の場とするなど、活性化の動きが見られる。

高岡鋳物の発祥の地である金屋町通り（高岡市）では、地域住民で組織した「金屋町まちづくり推進協議会」により町並み保存が推進され、白壁の町屋と石畳が調和した通りとなっている。

とやま都市 MIRAI 地区（富山市）では、広々としたブルーバールの両側に形態や色彩に配慮された近代的建築物が建ち並ぶとともに、明治から昭和にかけての富山の都市開発の歴史を伝える富岩運河を活用した環水公園が整備さ

れるなど、新しい都市空間が形成されている。

イ 地域の景観の課題

地域の景観は、人間の社会、経済活動によって形づくられた文化であり、守り、育てることが課題である。

自然と調和した開発や公共事業の実施、建築物の誘導等による優れた自然景観の保全が求められている。

農村景観と調和した土地利用や農村整備の実施とともに、住民による地域の特性を生かした景観保全活動の促進が求められている。

地域の誇りとなっている歴史的な町並みの保全や、緑や水辺空間の活用、景観に配慮した屋外広告物の設置誘導等により魅力ある都市空間の形成が求められている。

魅力的な景観の情報発信が求められている。

7 情報通信等技術を活用した新しい文化の創造と発信

(1) 情報基盤の整備状況

自然景観の国宝にあたる特別天然記念物は、黒部峡谷をはじめとする7件が本県に存在する。

富山県では、ケーブルテレビ（CATV）が全県で利用可能となっており、合わせて、CATV インターネットを利用することにより県下一円で高速インターネットが利用可能という全国有数の情報通信基盤が整備されている。

また、CATV 光ファイバーを借り上げて構築した「マルチネット」により、県の主要出先機関、県立の学校、美術館博物館、試験研究機関、さらに市町村役場が超高速ネットワークにより結ばれている。また、市町村がCATV 光ファイバーを活用して構築しているネットワークと役場を経由して当該団体内公共施設とも超高速接続が可能となっている。

CATV では、地域祭り行事、イベントなどの映像を、コミュニティチャンネルで放映するほか、リクエストによる随時の放映や、録画ビデオの販売を行うところもある。

県の行政情報や、観光情報をデジタル化し、インターネット経由で提供している「オンライン映像館」では、117件（平成18年7月現在）が蓄積されている。

富山県民生涯学習カレッジの「とやまデジタル映像ライブラリー」は、生涯学習・教育・文化等の分野の富山に関するデジタル動画映像をインターネットを利用して引き出し、視聴、編集・加工、さらには映像登録ができる、動画映像コンテンツ活用システムであり、703点(平成18年7月現在)の映像素材が登録されている。

近代美術館の収蔵作品をデジタル映像化し、館内で閲覧できるようにしている。また、埋蔵文化財センター収蔵出土遺物のデジタル映像をインターネットに提供しており、指定文化財の映像をインターネットに提供する準備をしている。

県内には、情報システムの構築やアニメなどのコンテンツの制作に高い技術力を有する企業が立地し、ネットワークを通じて全国と繋がっているものもある。

(2) 映像情報発信の状況

本県では、映像情報を蓄積し、インターネットを経由して提供するためのネットワーク基盤が高度に整備され、これを利用して映像情報を広く提供する実績もある。今後、これらを活用し、施設を作ることなくデジタル化した情報をネットワークを通して提供するバーチャルミュージアム、バーチャルシアターなどを展開することが可能となっている。

富山の文化全般にわたり、デジタル化した情報を一元管理し、バーチャルミュージアム、バーチャルシアターとして、公開、発信していくことの検討が求められる。

富山県民生涯学習カレッジの「とやまデジタル映像ライブラリー」は、家庭や各教育関係施設など遠隔で一般県民が郷土に関する映像を収集、公開するライブラリー構築に参画することが可能なデジタルアーカイブスである。バーチャルシアターとして利用されており、平成17年度は6,260件(H17)の視聴があった。映像ボランティアが、記録映像作りの支援を行っている。

現在は著作権の問題から、映像センターで所蔵する6千点あまりの映像すべてを視聴できるのは施設内に限られ、インターネット上に公開できるのは著作権をクリアした旬の映像やコンクール入選作品等に限定される。

このため、バーチャルミュージアムなどの整備に当たっては、公的な施設に設置した専用端末により提供する方法と著作権上の問題が整理されたものを、インターネットを活用して提供する方法を組み合わせる必要がある。また、映像取得の時点で必要な権利を確保することなど、提供内容の充実と、著作権対策を進めることも必要である。

インターネット市民塾は、県民誰でも容易にコンテンツを作成し、講座を開設することができる学習システムであり、地域の伝統文化、文芸、自然など、文化振興と地

域コミュニティ活性化に向けた多くの講座が開かれている。さらに、このような市民塾の活動が全国的に広がってきている。

携帯電話などの情報携帯端末を活用した、地域文化や自然の感動を発信する取り組みも始められてきている。

8 文化と産業の連携

(1) 文化振興と観光振興の連携

県内においては、市町村や地域の観光協会等が中心となり、各地における富山ならではの伝統芸能や曳山祭りなどの伝統文化、魅力的な文化遺産などが文化資源として観光への活用が図られ、県内外から多くの観光客が訪れている。

こうした文化資源の観光活用は、本県の文化の全国的な知名度の向上をもたらすほか、県民が県内の文化資源の魅力を再認識するきっかけとなり、文化の保存や振興の大きな力となる。

このため、今後は、文化振興と観光振興との緊密な連携を図ることにより、地域文化の本当の魅力を活用した観光振興や、観光を活用した地域文化の発信に積極的に取り組んでいく必要がある。

とりわけ、おわら風の盆、こきりこ、世界遺産五箇山の合掌造り集落などの伝統芸能や文化遺産は、全国での認知度も高く、本県の代表的な観光資源となっているが、これらの本質を損なうことなく観光活用を図るために、交通アクセス、町並み整備など、観光客の受入基盤の整備を進める必要がある。

また、富山には、文化資源として人を惹きつける魅力を有するものが数多くあり、全国的なアピールが可能であるにもかかわらず、十分にそのポテンシャルが活かしきれていない。こうした文化資源の観光活用については、近隣の観光資源や他の文化資源との組み合わせにより、新たな観光モデルコースの開発・PRに取り組むなど、まだまだ工夫の余地がある。

なお、近年、観光ニーズが多様化しているほか、台湾、韓国を中心に外国人観光客が大きく増加してきており、伝統芸能を滞在して学ぶといった体験型ツアーの企画・PRなど一層の工夫が求められているほか、外国へのPRや、多言語表記による観光案内板の整備、外国語観光ボランティアの育成等の受入体制の整備も課題となっている。

一方、伝統文化の観光への活用にあたっては、地域の受入能力を超えた入込みが、文化、観光のいずれにとっても好ましくないことから、祭時に限定しない通年観光への転換や、祭りの本来の姿を楽しむ部分と大量観光とのすみ分け、域外で見せる場の確保なども課題である。

また、住民活動の多様化・広域化とともに、地域の文化資源を取り巻く環境も大きく変化しつつある中で、近年、担い手や用具等の補修技術者の不足、その技術の向上が課題となっており、地域の伝統文化や文化遺産を守り伝えるためには、観光との連携が効果的であり、今後、文化資源の保存と活用を連動させる持続的な仕組みを構築するため、行政、観光協会、商工団体、地域住民、関連事業者等との連携が不可欠である。

(2) とやまの食文化の発信

“神秘の海” 富山湾の海底から立山連峰まで、海・野・山の変化に富んだ標高差4千メートルの自然環境を有する本県は、ブリ、シロエビ、ホタルイカ、カニ、コシヒカリ、氷見牛、名水ポーク、りんご等、全国に誇る素晴らしい食材に恵まれている。

また、結婚式の引き出物等にも利用される「かまぼこ」、江戸期からの伝統をもつ腰の強い氷見のうどん、スルメイカの塩辛にイカ墨を混ぜ込んだ「黒作り」、刺身を北海道産の昆布で挟んだ「昆布じめ」、江戸時代に幕府に献上されていた「ますの寿司」、かぶの塩漬けにブリやサバの切り身を挟んで麴に漬け込んだ「かぶら寿司」など、彩り豊かな食文化が形成されている。

古代米など万葉時代の食文化をイメージした万葉食をイベントに供することも行われている。

五箇山では、山菜等を用いた伝統的な食文化が受け継がれており、報恩講などの宗教祭事や信仰に由来する料理が民俗行事や社会生活に伴って家庭で伝えられてきた。

バタバタ茶のように信仰儀式から地域のいこいの場となった風習もある。豊かで清澄な水と気候によって各地で作られている地酒は、全国的に評価されている。

立山山麓では、立山信仰に帰依する参拝者に宿坊でふるまわれた「つぼ煮」が、現在でも冠婚葬祭の際のもてなし料理として伝えられている。

これらの食材、料理等は、県民にはなじみ深いものであり、全国的にも有名なものもあるが、素材が素晴らしいため、アレンジや創作的な取組みには必ずしも積極的ではなかった。今後は、素材の良さをそのまま活かした料理に加え、素材に手をかけた創作的な料理を「越中料理」として提案・発信していくことが重要である。

(3) 伝統文化を支える技能・技術の継承・発展

伝統文化の維持・発展には、文化を支える技能・技術を継承する人材の育成が重要である。日本で唯一の木彫刻の職業能力開発校である「井波木彫刻工芸高等職業訓練校」は、昭和22年に井波彫刻協同組合により設立され、将来的に独立・自営を旨とする優秀な技能者を養成している。

伝統によって培われた木造建築、家具、建具、造園等の職人の技と、美と芸術性を追求する心を持った人材の育成を旨として平成8年に開校した専門学校「富山国際職藝学院」（平成18年4月から「職藝学院」に校名変更）は、校外工房実習など特色ある学習を受けるため県内外から学生が集まっている。また、「内山邸」や県内の伝統家屋の保存修繕に協力するなど、地域に根ざした実践的な取り組みも積極的に行っている。

県立高岡工芸高校は、地場の高岡銅器、高岡漆器の優れた人材を育成し、卒業生から多くの俊才を輩出している。富山大学芸術文化学部（旧高岡短期大学）は、地域の伝統工芸、文化産業を踏まえた実践的な教育・研究を行っている。

また、伝統芸能の担い手の育成についても、各保存会等による継承活動が行われている。氷見市では、平成17年に開館した「ひみ獅子舞ミュージアム」の獅子舞演舞場において、獅子舞の実演や練習、各種体験学習を行っている。

(4) 伝統ある産業文化から生み出された最先端のものづくり文化

富山の県民性は、勤勉実直で、積極進取の精神に富んでおり、藩政時代から製造され先用後利の独特の方法で全国に販売された和漢薬は「とやまのくすり」として知られるほか、暴れ川を治めて電力事業を興した。

豊富な水と安価な電力に支えられるとともに、高岡銅器が培った高度な鑄造技術・金型技術等が活かされ、一般・電機機械をはじめとして、アルミ等の金属製品、医薬品等の化学などバラエティに富んだ日本海側屈指の産業集積が形成されている。

300年余りの歴史を持つ「くすり」は、富山の代名詞として今なお全国的な知名度を持っているが、さらにその研究蓄積にバイオの技術や電子・微細加工技術を融合し、新しい診断・治療技術の開発をめざした「とやま医薬バイオクラスター」の形成に取り組んでいる。また、医薬品の製造・販売を支える産業として、容器、包装、機械、印刷、デザイン業などの関連産業が発展している。

戦後、新川地域に立地したファスナー産業は、材料から製品まで一貫生産を図ることにより、質の高い製品を世界中に発信している。

昭和30年代の建設ブームの中で、本県のアルミメーカー各社は、アルミサッシ分

野へ進出し、現在、全国生産量の4割近くを占める全国一のアルミ建材産地を形成している。また、発電機械に関わる工具開発を基礎に、精密機械やベアリング、さらには産業用ロボットなど付加価値の高い製造業が発達している。

世界で最もいやし効果があるとしてギネスブックに載せられたアザラシ型のロボット「パロ」は、県出身者が開発し、県内ベンチャー企業が製造しており、県内ははじめ全国の老人介護施設等で成果を挙げている。また、県内の高校生や学生が全国規模のロボットコンテストで好成績を挙げている。

情報通信技術に関しては、高度なネットワーク基盤に加え、ソフト開発、精密機械製造の技術などの基盤がある。

このように、本県には、伝統を基盤として新しい技術を加えて更に高度なものを作り出していく最先端のものづくりの文化がある。

9 文化を活かした地域づくり

市町村単位など地域の芸術文化協会も組織され、地域の芸術祭などの活動が行われているところがあるが、地域間の交流や全県的な広がりが十分ではない。

地域の文化ホールを中心に、地域の文化を素材とした演劇やこどもミュージカルが市民や地域の芸術家、芸術団体を中心に行われている。地域での県民の幅広い参加や芸術性の向上が望まれる。

地域には、特色のある郷土芸能、歴史的に由緒ある建造物などの文化遺産が多い。

とやま文化財百選の選定等を進めており、文化財指定や登録がされていない文化の宝ものを発掘し、地域づくりへ活用することが求められている。活用に向けて、地域の人々のさらに幅広い支援と参加が望まれる。

井波彫刻、高岡の金工など伝統文化に立脚しながら、さらに新たな創造的活動によって、全国に誇れる美術作品を創作する活動が活発に行われるよう取り組む必要がある。

俱利伽羅合戦、ぶり街道、平家の落人伝説、歴史の道などの伝説や伝承を生かした地域づくりが行われている。

(1) 地域で開催される特色ある文化事業

ア 高岡万葉朗唱の会

高岡万葉朗唱の会は、大伴家持が越中の国司として今の高岡在任中に詠われた和歌を含み編纂された万葉集にちなみ、三昼夜、万葉集全巻を歌い継ぐ「万葉朗唱」を中心行事とした「高岡万葉まつり」のイベントの一つである。

古城公園の濠に仮設された水上舞台で、万葉の衣裳を着て参加者が朗唱するこのイベントは、愛好者にとって参加しやすい体験型テーマパーク的事業として、期間中、県外からも300人近い参加者を集めてきている人気事業である。

朗唱者にとっては感動するイベントだが、昼夜、和歌をよみあげ続けるという内容のため、見て楽しむという趣向に欠け、また、客席も狭く見学者も少ないなど、課題を有する。近年、主催者により、朗唱者の写真撮影、茶会、万葉食ほか関連事業の開催など行われているが、審査を取り入れた見せる工夫、全国発信への努力などの課題もある。

イ 福光声楽セミナー

スキー場のバンガローをはじめとする宿泊施設等の夏場における活用を図るため、地域の観光協会、自治体を中心となり、本県出身の音楽プロデューサーの企画により、国内外の声楽指導者を講師に招いて、滞在型のセミナーを開催し、全国から受講生を集め、実績をあげている。

期間中は、地域の学校、社会施設等で、講師、受講生等による音楽会を開催するほか、地元合唱団とのジョイントなど地域をあげたイベントとなっている。

福光地区（南砺市）には、いわゆる文化ホールがないため、合併後の南砺市内の他の文化ホールでの音楽会の開催など地域内の文化ホール、文化施設の連携等が課題である。

近年、県内では声楽をはじめ、弦楽、管楽、器楽など専門的な音楽教育を修了し、県内で指導者等として活躍する若手音楽家が増えている。中でも声楽では、同事業に参加し、さらに研鑽を積む者もおり、また、さらに国内外で音楽教育を受け、研鑽に励むもの、さらに国内外の音楽コンクールに出場するものなどもあり、国内外でプロとして活躍を始めるものもいる。

ウ いなみ国際木彫刻キャンプ

井波地区（南砺市）から、ハンガリーの国際木彫刻キャンプに参加した彫刻家の提唱により、同地域で始まった事業で、国内外の木彫刻家を招聘し、滞在型の

公開制作と展示を行う事業である。

平成3年に始まり、4年に1回、井波のスキー場や公園を会場に開催されている。地区の彫刻協同組合等伝統技術者も組織ぐるみで参画し、同時期に全国木彫刻コンクールを開催している。

また、新たに、観光協会を中心に取り組む「まちなみアートリレー事業」を同一イベントに併催して、同一イベントとまちなみ、地元の瑞泉寺を結んだ集客事業としても取り組み、町をあげてのイベントの仕掛けに努めている。

地区内の公園等には、同一イベントでの制作作品が展示されている。今後、国内での周知、集客、財源の確保、市町村合併後の他地区の芸術文化事業との連携が課題となる。

エ 「まちなみアートリレー事業」

八尾のまちなみを生かし、美術作品等を展示する事業を、県内各地で開催し、各事業の共同告知と智恵の交換のための連携、交流を目的とする事業で、県内9箇所で開催され、共同のポスター、パンフレット、記録集を印刷し、配布し、宣伝するほか、毎年、交流・研修会等を開催し、相互に事業の視察をするなど、連携を図っている。

「おわら風の盆」以外にも八尾に息づく伝統文化をアピールするため、研究会を重ねてきた中で、「坂のまち千年会議」が町並みの維持を働きかけた。さらにこの会議が中心となって伝統的な町並みを活かし、民家で美術品を展示する事業を始めた。また、同地区の大工、建築士で作る「八匠の会」が100軒を超える家屋の改築や改修を行い、八尾の町並みが形成された。このおわらで有名な町屋と石垣の坂を中心に町並みと街路の保全に努めた八尾（富山市）を中心に、瑞泉寺門前の木彫刻を制作する店などが並んだ景観の保全につとめた井波（南砺市）、舟問屋の倉庫街として栄えて蔵とさまのこ（格子戸）に特徴のある吉久（高岡市）、高岡銅器の職人の町として栄えた金屋（高岡市）、北陸道の蔵と鍔絵に特色のある小杉などのほか、空き店舗や古民家をギャラリーとして活用した福野（南砺市）などが中心となって連携をはかっている。江戸末期の農家として残る内山邸、回船問屋や売薬等で栄えた民家の水橋（富山市）などでも開催されている。

八尾など先進的な取組みを学ぶとともに、福野、井波、吉久、金屋、小杉などの熱心なリーダー、住民の相互交流が継続されている。

今後、さらに多くの地区の参画や年間を通じた事業化、県内外への告知なども期待されるが、連携事業のための連絡事務業務をどこで担うか、各地区とも住民、

商工会等が主体となって行われ、財源も脆弱なため、継続的な開催と資金の確保が課題である。

地域の歴史的町並みや商店街の空き施設を活用した芸術作品の展示事業などを連携する「まちなみアートリレー」のほか、県内各地で古い民家や蔵、空き施設を活用した文化事業が行われている。

県内には、山町筋、伏木（以上高岡市）、岩瀬（富山市）、滑川、舟見（入善町）、新湊（射水）などに、歴史ある町並み、古民家などあり、それを活用したフェスティバルの開催、公演、街づくり、観光化などが進められており、地域が主体となる取組みが、さらに多くの地区で進むとともに、年間を通して、町並みや地域の文化活動が県内外の来訪者に楽しまれ、他に広がることが期待される。

旧井波町で取り組んだ「しもたや開放事業」で、空き店舗の業務用貸し出しに補助し、彫刻師が制作展示する町並みは、木彫りの里として人気を集めている。

県内各地で文化資源を活かした地域づくりが促進されるためには、各地の事業や担い手の連携、交流が鍵となる。さらなる地域の特色ある活動の掘り起こしが望まれる。

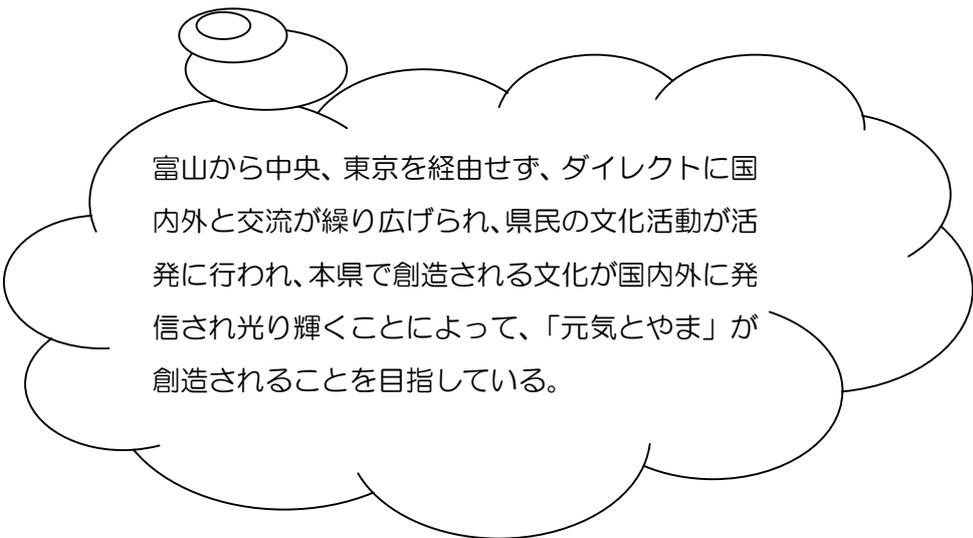
第3 基本目標と施策の方向性

1 基本目標

今後、以下の3つの目標を大きな柱として文化振興を進め、『富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造』を目指す。

- (1) 県民が幅広く文化の鑑賞や新しい文化の創造を楽しみ、文化を通じた交流や文化活動に参加することを拡大していく。特に、次世代を担う子どもたちが、文化に親しむことを促進する。
- (2) 質の高い文化を創造し、世界に発信する。これにより、富山県の文化のレベルアップを図るとともに、県民の誇りとなる文化面での「とやまブランド」を確立する。
- (3) 文化は、まちづくりや経済活動など地域社会に幅広く関わってくるものであり、にぎわいづくり、産業振興、観光との連携など、社会の各分野で文化と連携して、総合的な文化振興に関する施策を展開する。

富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造



富山から中央、東京を経由せず、ダイレクトに国内外と交流が繰り広げられ、県民の文化活動が活発に行われ、本県で創造される文化が国内外に発信され光り輝くことによって、「元気とやま」が創造されることを目指している。

2 文化の担い手と県の役割

文化活動の担い手は、県民である。美術・音楽・演劇・舞踊など、文化を新しく創造する局面では、主に人間の手、足、口など身体を用いて、個人又はグループの独創的な創造力に基づき、新しい作品が創作され、表現される。これを鑑賞する局面では、人々は、見て、聞いて、楽しみ、雰囲気を楽しむ、感動を覚える。このように、文化活動は極めて人間的な活動であることから、県民一人一人が主人公である。また、文化活動を組織的に行っていく場合、文化団体、ボランティア、企業など様々な主体が、自主的に参加し、連携を図りながら、文化振興を図ることが大切である。

県の役割は、県民が文化を鑑賞、創造、交流するための機会を確保し、文化活動に参加する団体やボランティアなどの様々な主体により、文化活動が活発に行われ、質の高い文化の創造・発信が行われるよう支援するとともに、観光、まちづくり、産業など他分野との連携を図るコーディネーターとして、その条件整備や環境づくりに努めることである。

このような役割を的確に果たしていくためには、文化行政の推進に向け、行政の体制のあり方についても見直していく必要がある。県では、芸術文化の振興に係る行政の充実と一元化を図るため、平成18年4月から、生活環境部の名称を「生活環境文化部」に変更するとともに、同部に「文化振興課」を設置し、従来の生活文化課文化振興班と教育委員会文化財課振興係（美術館、博物館等を所管）の事務を移管したところである。今後、さらに文化行政の総合化について検討していく必要がある。

3 施策の方向性

上記の基本目標にある3つの大きな柱に沿って、今後、県が行う文化振興の施策の方向性は、以下のとおりである。

(1) 文化活動への幅広い県民の参加

- ア 文化施設での特色ある運営、県民の多彩な活動の展開、巡回展示・出前公演などによる県民への働きかけ等を通じて、県民が優れた文化を鑑賞する機会の充実を図る。
- イ 県民の多彩な練習や発表を行う場を充実し、指導者を確保するなど、新しい文化の創造への取組みを支援する。
- ウ 文化ボランティアの養成、地域のにぎわいづくりの促進など、文化を通じた様々な交流や文化活動への参加の拡大を図る。
- エ 子どもの頃から優れた文化に触れ親しむ機会を提供し、社会教育、学校教育の両面から文化に関する指導・教育を充実させるなど、次世代を担う子どもたちの文化活動の充実を図る。

(2) 質の高い文化の創造と世界への発信

- ア 世界に誇れる、優れた舞台芸術の創造と人材育成の拠点づくりを進め、世界への発信を促進する。
- イ 富山県の特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信を推進する。
- ウ 地域に根ざした歴史や伝統文化、美しい景観など、文化の宝ものについて県民自らが再評価し、県民が誇れる富山固有の文化として世界に発信する。
- エ 情報通信等の最先端の技術を活用した文化の創造、富山の文化の魅力の国内外への発信を推進する。

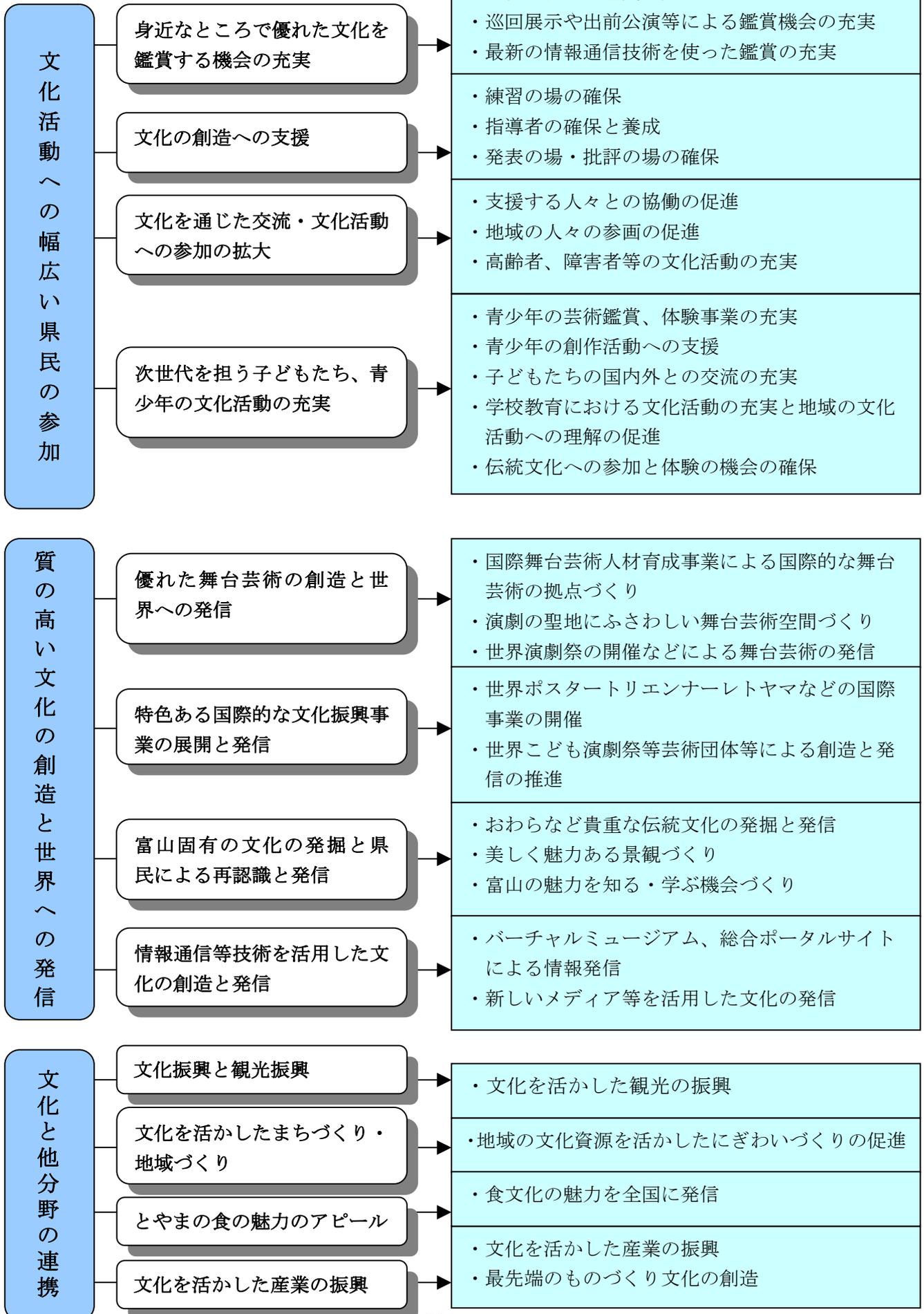
(3) 文化と他分野との連携

- ア 多様な観光ニーズを踏まえながら、本県の文化遺産、伝統芸能・伝統工芸や本県で創造された現代芸術、特産品、景観等の様々な資源をさらに発掘・活用し、文化振興と観光振興の連携を図る。
- イ 地元の文化資源の再発見、再評価などを通じた地域の魅力を高める取組みを支援し、住民や来訪者が活発に交流するにぎわいのあるまち（地域）づくりを推進する。
- ウ 美しい自然環境と多彩な伝統・文化に育まれた「とやまの食」の魅力の国内外への発信を推進する。
- エ 多彩な富山県の文化を基盤とした商品・産業の創出を推進し、最先端のものづくり文化を次世代に継承するなど、文化を活かした産業の振興を図る。

第4 施策体系

主な重点施策

施策の方向性



第5 主な重点施策

1 文化活動への幅広い県民の参加

(1) 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実

○身近なところで、文化を楽しみ、文化に感動し、文化を通じて人と人との心を通う交流を行う機会を増やす。

ア 文化施設での鑑賞の充実

(県民の鑑賞機会の充実)

- ・文化施設における特色ある自主文化事業を推進する。
- ・美術館・博物館等における開館時間の延長など施設の利便性の向上を図る。
- ・県立図書館では、貴重書等の電子化の推進を図るとともに、ホームページの充実や広報誌への掲載などにより、利用者の利便性向上に努めていく。

<主な事業> (平成18年度現在で取組みを推進しているもの。以下同じ。)

事業	内容
県立文化ホール企画事業	県立ホールが企画実施する公演等
美術館・博物館等展覧会事業	企画展等の開催
図書館の利便性向上	県立図書館における貴重文書の電子化、情報プラザの運営等

(施設の企画運営能力の向上)

- ・公演や展覧会を企画運営するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフを養成する。
- ・指定管理者制度の導入を契機に、民間の知恵を活用し、質の高いサービスの提供と運営の効率化を図るとともに企画運営のレベルアップを図る。
- ・芸術文化の目利きとして豊かな経験があるスーパーバイザーを設置し、専門家の知恵の活用により文化施設において特色ある活動が行われることを促進する。

<主な事業>

事業	内容
公立文化施設協議会による舞台技術研修	業務管理技術研究、文化施設職員研修、舞台技術講習会等に対する補助
指定管理者制度の導入	県立文化ホール、美術館・博物館への指定管理者制度の導入

(施設のネットワークの活用)

- ・県内外の文化ホールネットワークを通じた共同企画事業の実施、情報の発信、専門職員の交流、情報交換や連携等による文化活動の拠点機能の向上を図り、すぐれた文化に触れる環境づくりを推進する。
- ・博物館等のネットワークを活用した広報や、収蔵品の交流による魅力ある展示の充実を図る。

<主な事業>

事業	内容
文化ホールネットワーク推進事業	公立文化ホールが共同で実施する公演事業に対する補助
美術館・博物館トータルネットワーク推進事業	博物館協会が行う県内美術館・博物館の情報化に対しての補助

イ 巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実

- ・学校や福祉施設、公民館など身近なところでの優れた美術作品の巡回展示や出前公演を支援する。
- ・出前公演や学校一日美術館など、アウトリーチ事業を通じて、ホールや美術館へ足を運んでもらうための普及事業を推進する。
- ・初心者向けの分かりやすい体験型の出前講座や親子で楽しむ解説付きの講座の開催、子どもが芸術に触れることのできるキッズコーナーの設置などを促進する。

<主な事業>

事業	内容
出前公演等推進事業	学校や公民館等への出前公演の開催に対する補助
県民ふれあい公演推進事業	県民文化団体等の巡回公演
近代美術館館外展示・教育普及事業	ふるさとギャラリー（ふるさとパレス内）における展示や学校一日美術館の開催等

ウ 最新の情報通信技術を使った鑑賞の充実

- ・全県で利用可能なケーブルテレビや高速インターネット、FM放送等を活用した公演・展示等の放送や、「とやま学遊ネット」、映像センターの活用による文化事業の普及広報、インターネット市民塾の活用等を進めることにより、県民が文化鑑賞などの活動を行う環境を充実する。
- ・バーチャルミュージアムなど情報通信技術を活用した映像などの文化情報の発信について、美術の画像にとどまらず、映像や音楽など、富山の芸術文化全般

にわたり提供していく。併せて、著作権に関する課題に対応する。

- ・文化情報を一元的に集め、総合的に発信するため、ポータルサイトの構築に取り組みほか、インターネットやケーブルテレビ等を活用し、文化施設の催事、活動のPRを充実する。

<主な事業>

事業	内容
生涯学習情報提供ネットワークシステム（とやま学遊ネット）整備事業	県民生涯学習カレッジ、県立図書館、市町村等をインターネットで結び、生涯学習情報を提供
県公立文化施設協議会、県博物館協会による情報提供	インターネットによる情報提供の実施
インターネット市民塾推進事業	インターネットを活用した在宅学習と地域交流活動からなる生涯学習システムの運営に対する補助
美術館・博物館トータルネットワーク推進事業	博物館協会が行う県内美術館・博物館の情報化に対する補助

（２）文化の創造への支援

- 地域や文化施設で県民が多彩に活動する場を確保し、県民が参加し創作する活動への指導と批評の機会を確保する。

ア 練習の場の確保

- ・施設の練習専用利用のための利用時間の延長や使用料の減額などを行う。
- ・文化団体や地域の団体が練習から発表まで、ホールの支援を受けながら継続的に利用できるフランチャイズ制などの活用を通じた文化団体に対する一貫継続した支援システムを確立する。
- ・ホールの指定管理者が地域の文化の担い手の活動を支援する取組みを推進する。
- ・市町村合併等により複数館となった文化ホールの位置づけを広域的に見直し、住民の練習の場等としての活用の取組みを推進する。
- ・地域の余裕施設、空きスペースを練習に活用する取組みを推進する。

<主な事業>

事業	内容
県立文化ホールの開館時間延長	県立文化ホール全館について午前9時から午後10時まで開館
県立文化ホールの練習利用に係る使用料の減額	利用が予定されていない日の空きホールを芸術文化活動の練習等に利用する場合に、使用料を7割減免
福光 IOX-AROSA 声楽サマー・セミナー開催補助	国内外の優れた声楽家等による声楽家志望者の指導等に対する補助

イ 指導者の確保と養成

- ・芸術文化指導者招へい事業により、国内外の優れた講師による指導で、舞台芸術分野の発表の成果も上がっているため、引き続き支援する。
- ・芸術文化アドバイザー制を活用して、地域の活動に対する指導の充実を図る。

<主な事業>

事業	内容
芸術文化指導者招へい事業	音楽分野・舞台芸術分野の第一人者によるアマチュア芸術文化団体の指導
芸術文化を担う人づくりアドバイザー事業	専門家（芸術文化アドバイザー）を学校や地域に派遣し子どもや指導者への助言・指導

ウ 発表の場・批評の場の確保

- ・県内芸術家・団体が分野・会派を超えて発表する県民芸術文化祭や、県内美術家の優秀作品を奨励し新たな美術家を発掘する県美術展の開催を支援する。
- ・県内新進芸術家による公演や県在住・出身の新進芸術家を奨励するコンクールの開催を支援するほか、新進芸術家をリストアップし、県民に紹介することによる活動の奨励と県内文化ホールなどでの新進芸術家の発表機会の拡充を図る。
- ・合評会、交流会等芸術家、芸術団体が相互の交流の場をつくり、相互に批評することを促進する。
- ・文芸資料等の収集、展示等において、図書館や既存施設の活用を促進する。
- ・文化活動を行う人々や団体のための交流の拠点の確保を促進する。
- ・県民の旺盛な創作活動を評価し、顕彰する機会を設ける。
- ・文化ホール等の無料スペース等を活用した発表の場の確保、専門家による指導・批評の場の確保などにより技術の向上を支援する。

<主な事業>

事業	内容
県民芸術文化祭の開催	国民文化祭の成果を継承し、発展するフェスティバルとして開催
県美術展覧会（県展）の開催	県展（日本画、洋画、彫刻、工芸など6部門で公募、審査、展示）に対する支援
（新）「美の祭典 越中アートフェスタ」の開催	女性や勤労者を含めた幅広い県民が参加し、新しいジャンルも取り入れた公募美術展の開催
新進芸術家公演開催事業	県内新進芸術家による小規模公演等
国民文化祭への参加奨励	芸術文化団体への国民文化祭への参加奨励金
とやま文学賞の作品公募	文学に関する気鋭の新人のすぐれた創作活動を選奨
県立文化ホールの練習利用に係る使用料の減額〔再掲〕	利用が予定されていない日の空きホールを芸術文化活動の練習等に利用する場合に、使用料を7割減免

(3) 文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大

○文化を支える人材を育成し、NPOなど民間団体との協働を推進するとともに、文化の力による福祉の充実に努める。

ア 支援する人々との協働の促進

- ・青年層が創造性を発揮していきいきと活動し、中高年層が知識、経験を活かして活躍するよう、文化ボランティアを養成する。
- ・文化施設において、友の会等、サポーター組織との連携、NPOとの協働、企業メセナの活用による事業の企画、運営の推進の取組みを強化する。
- ・富山県芸術文化協会など文化団体との協働による事業の企画運営を推進する。
- ・NPOなどの民間団体が文化支援、文化と他分野との連携に取り組む事業を支援する。

<主な事業>

事業	内容
文化ボランティア養成事業	文化ホールの企画運営を支援する文化ボランティアの養成
いきいき文化財博士ネットワーク事業	文化財ボランティアの活動活性化や連携強化を図る研修会等の実施
企業メセナ文化ホール事業	文化ホールが企業と連携して実施する芸術文化事業に対する補助

イ 県民の文化活動への参画の促進

- ・新川学びの森天神山交流館での「学びの森音楽祭」など地域と密着した事業を支援し、文化ホールネットワーク事業や自主文化事業への県民の参画を推進する。
- ・地域の人々が核となった施設の利用、活用のための委員会を設置すること等を通じ、地域の人々の知恵の活用を促進する。
- ・県民又はそのグループが自ら企画し、運営する文化事業を促進する。
- ・インターネットなどの新たなコミュニケーションツールの活用により文化交流と地域間の連携を図る。

<主な事業>

事業	内容
文化ホールネットワーク事業〔再掲〕	公立文化ホールが共同で実施する公演事業に対する補助
(拡)内山邸再生協働事業	内山邸の保存修繕を通しての農村文化や伝統建築等の伝承
(新)いきいき文化財博士活用推進事業	文化財ボランティアを活用し、地域の文化財をテーマにした子ども向けガイドリーフレットの作成への支援
インターネット市民塾推進事業〔再掲〕	インターネットを活用した在宅学習と地域交流活動からなる生涯学習システムの運営に対する補助

ウ 高齢者、障害者等の文化活動の充実

- ・ 高齢者、障害者、子育て中の保護者など誰もが身近に文化に触れやすい環境を整備する。
- ・ 障害者文化育成事業を通じて、文化団体との連携・交流を促進する。
- ・ 障害者の文化活動の場の整備や、文化芸術に関する情報提供、障害者の主体的な文化活動の支援等に努める。
- ・ 高齢者向け出前公演や手で触る彫刻展など参加・体験型の文化活動を促進する。
- ・ 高齢者、障害者等の文化活動をサポートする人々の活動を促進する。

<主な事業>

事業	内容
子どもと障害者の美術館観覧料等の無料化	美術館等の県立文化施設における児童生徒と障害者の観覧料等の通年無料化
臨時保育室設置事業	県又は文化振興財団主催のコンサート等での臨時保育室の設置
富山ねりん美術展の開催	高齢者の文化活動を促進し、交流の場としての美術展を開催
障害者絵画展等文化芸術育成支援事業	障害者の芸術的な才能を周知し生きがいを支援する絵画展を開催
シニアタレント活動事業 (いきいき長寿財団)	文化活動に豊富な経験、技能を持つ高齢者の発掘・養成事業に対する補助

(4) 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

○次世代を担う子どもたちの豊かな人間性と多彩な個性を育むため、子どもたちが本物の文化に触れ、文化活動に参加し、文化を通じて人と出会い、交流し、一緒に力を合わせるなどかけがえのない体験をする機会をつくる。

ア 青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実

- ・ 青少年を対象とした本物の芸術鑑賞の機会を拡充し、学校や地域での優れた美術作品の巡回展示、文化ホールからの出前公演、子ども自身が参加する芸術の体験型事業、親子で楽しむ解説付きの講座などを開催する。
- ・ 美術館、博物館の通年無料化を活用した普及事業の開催を促進する。

<主な事業>

事業	内容
本物の舞台芸術体験事業	小・中・高校生を対象とした舞台芸術公演と専門家による指導
学校巡回劇場の開催	小・中学生を対象とした舞台芸術公演の鑑賞機会の提供（日本青少年文化センターとの共催）
出前公演等開催事業〔再掲〕	学校や公民館等への出前公演の開催に対する補助

子ども芸術文化活動支援事業	公立文化ホールの機能を活用した県民が提案する「子ども芸術文化活動」への支援
文化体験プログラム支援活動（文化庁）の活用	地域の特色ある文化を活かし、子どもの芸術文化・伝統芸能・文化財等を体験する事業
伝統文化こども教室（文化庁）の活用	文化庁事業の伝統文化の体験指導事業
子どもと障害者の美術館観覧料等の無料化〔再掲〕	美術館等の県立文化施設における児童生徒と障害者の観覧料等の通年無料化
近代美術館館外展示・教育普及事業〔再掲〕	ふるさとギャラリー（ふるさとパレス内）における展示や学校一日美術館の開催等

イ 青少年の創作活動への支援

- ・ 青少年が行う美術、文芸の創作、舞台発表など文化活動の発表機会を拡充するとともに、美術教室事業やこども文化活動を支援する。
- ・ 青少年の意欲的な芸術活動への働きかけと技術向上の指導を行うため、芸術の専門家をアドバイザーとして派遣するほか、スクールバンド育成事業などを開催する。

<主な事業>

事業	内容
(新)こども舞台芸術創造事業	県立文化ホールでの地域の子どもによる舞台芸術作品の創造と発表に対する支援
県青少年美術展	青少年（中学生から 25 歳まで）を対象とした公募美術展の開催に対する補助
県こどもフェスティバル	児童文化活動者（団体）や子どもの創作活動を発表するフェスティバルの開催に対する補助
青少年音楽コンクール	青少年を対象とした音楽コンクールの開催に対する補助
(新)トライアートミュージアム創造広場事業（近代美術館運営費の一部）	展示作品の模写の実施、鑑賞用教材の開発、アートワークショップの開催
水墨画ワークショップ	水墨美術館において幼児から中学生までが初めての水墨画に挑戦
文化芸術による創造のまちづくり支援事業（文化庁）の活用	地域における文化芸術活動の活性化のための人材育成、団体育成、発信交流
芸術文化を担う人づくりアドバイザー事業〔再掲〕	専門家（芸術文化アドバイザー）を学校や地域に派遣し子どもや指導者への助言・指導
スクールバンド育成事業	吹奏楽部に属する中高校生を対象とした県内外のプロによる演奏技術指導

ウ 子どもたちの国内外との交流の充実

- ・ 世界こども演劇祭、全日本地域選抜モダンダンス・ガラ・ジュニア、国際吹奏楽フェスティバルなどの国際大会や全国高等学校総合文化祭など、子どもたち

が文化交流する大会への参加促進や開催を通じて子どもたちの文化交流、国際交流の機会を拡充する。

<主な事業>

事業	内容
世界こども演劇祭等の開催	世界こども演劇祭、アジア太平洋こども演劇祭等の開催
世界こども演劇祭への派遣	世界こども演劇祭へ県内団体を派遣
こども国際交流発信事業	芸術文化団体による国際交流事業
全国高等学校総合文化祭参加補助	全国高等学校総合文化祭への高校生の派遣に対する補助

エ 学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進

- ・学校教育における、美術館、博物館の利用と連携の取組みを促進する。
- ・総合的な学習の時間の活用を進めるとともに、芸術・伝統文化に関するカリキュラムの研究開発推進、教員研修の充実、学校や研修会への当該分野の講師派遣に努める。
- ・文化団体、文化施設、大学との連携を図るとともに、子どもたちが校外、地域における文化活動に参加することへの理解を促進する。

<主な事業>

事業	内容
高等学校文化祭開催補助	高等学校文化祭への開催補助
中学校文化祭開催補助	中学校文化祭への開催補助

オ 伝統文化への参加と体験の機会の確保

- ・伝統芸能は、長い歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた地域の財産であり、地域で子どもたちが将来にわたって継承し、発展が図られるよう、小さいときから地域に伝わる年中行事、伝統文化に参加したり、体験する取組みを進める。
- ・学校、地域において子どもが地域の伝統文化を体験する場の確保に努める。

<主な事業>

事業名	内容
伝統文化こども教室（文化庁）の活用の推進〔再掲〕	文化庁事業の伝統文化の体験指導事業
ふるさと再発見事業	小学生を対象にした野外活動、創作活動などの体験学習に対する補助
特色ある遊び・体験活動促進事業	市町村と共同で行う特色ある創作活動、伝承文化活動等の促進（県福祉事業団へ委託）

子ども考古学事業	小学校等の出前授業、子ども向け企画展及び子ども考古学講座の開催
ふるさと考古学教室	埋蔵文化財センターで子どもや教員等の指導者に古代の生活や身近な文化財を解説
考古学キッズ	子どもたちを対象とした考古体験クラブ活動の継続的な実施
(新)いきいき文化財博士活用推進事業〔再掲〕	文化財ボランティアを活用し、地域の文化財をテーマにした子ども向けガイドリーフレットの作成への支援

2 質の高い文化の創造と世界への発信

(1) 優れた舞台芸術の創造と世界への発信

- 優れた舞台芸術の創造と人材の拠点づくりを進め、富山が世界の文化の交流拠点となるよう努め、富山で創造された新たな文化を世界へ発信する。
- 「舞台芸術特区TOGA」の世界に誇ることのできる舞台芸術の専用空間を活用した舞台芸術の創造と鑑賞事業を推進する。

ア 国際舞台芸術人材育成事業による国際的な舞台芸術の拠点づくり

- ・(財)舞台芸術財団演劇人会議が行う、俳優訓練法スズキ・メソッドを学ぶため世界の舞台芸術家が集う世界演劇の拠点づくりを推進する。
- ・国内外で活躍する演出家や俳優が集い、互いに研鑽し、創造・実践活動を行う舞台芸術人材育成事業を推進する。
- ・新富山大学と連携し、アートマネジメント講座(ゼミ)を開講するなど、利賀インターンシップ事業を推進する。

<主な事業>

事業	内容
(新)舞台芸術特区人材育成事業	世界演劇等の拠点として構造改革特区の認定を受け、国際的な舞台芸術家の専門教育を行う人材育成事業

イ 演劇の聖地にふさわしい舞台芸術空間づくり

- ・利賀芸術公園を「舞台芸術特区 TOGA」として、世界的に評価の高い合掌造り劇場に係る規制緩和を進め、世界に誇れる舞台芸術の専門空間づくりを推進する。

<主な事業>

事業	内容
利賀芸術公園管理運営事業	利賀芸術公園の管理運営

ウ 世界演劇祭の開催などによる舞台芸術の発信

- ・世界演劇祭利賀フェスティバル、BeSeTo 演劇祭などを開催し、富山から世界一流の質の高い舞台芸術を発信する。

<主な事業>

事業	内容
利賀芸術公園事業	世界演劇祭「利賀フェスティバル」の開催

エ 日露文化フォーラムの成果を踏まえた新たな取組み

- ・「日露文化フォーラム 2006」の成果を踏まえ、富山を拠点として国際的な文化の交流や共同制作による新たな芸術文化の創造を行い、国の内外に発信する。
- ・利賀芸術公園を拠点として、国際的な舞台芸術の人材育成事業を推進する。

<主な事業>

事業	内容
(新)日露文化フォーラム開催支援事業	日本とロシアが芸術を通じて交流する「日露文化フォーラム」の開催の支援
(新)舞台芸術特区人材育成事業〔再掲〕	世界演劇等の拠点として構造改革特区の認定を受け、国際的な舞台芸術家の専門教育を行う人材育成事業

(2) 特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信

○地域における文化振興により世界との交流を推進し、友好と平和に貢献する。

ア 世界ポスタートリエンナーレトヤマなどの国際事業の開催

- ・「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」や「墨画トリエンナーレ富山」など世界へ向けて特色ある事業を開催する。
- ・シモン・ゴールドベルク・メモリアル音楽振興事業など文化施設での世界的な特色ある事業の開催を支援する。
- ・文化活動拠点施設への芸術監督、プロデューサーの配置による運営と創造、発信を促進する。

<主な事業>

事業	内容
世界ポスタートリエンナーレトヤマ開催	トリエンナーレ方式で行う国際ポスター展
墨画トリエンナーレ富山	水墨画の国際公募美術展
ロシア現代美術の展覧会の開催	日露文化フォーラムを記念したロシアの現代美術の展示
(新)シモン・ゴールドベルク・メモリアル音楽振興事業	立山を終焉の地とした世界的バイオリニストを記念した音楽祭や若手音楽家のためのセミナー開催を支援
ジャパン・ワイルドライフ・フィルム・フェスティバル	ジャパン・ワイルドライフ・フィルム・フェスティバルの開催準備支援及びPR

イ 世界こども演劇祭等芸術団体等による創造と発信の推進

- ・富山県芸術文化協会による演劇、舞踊、音楽、美術、生活文化分野でのハンガリー、チェコ、環日本海諸国との文化団体の交流を通じて、県内、地域の優れた文化を国内外に発信する事業を支援するとともに、これらの国々の優れた文化との交流により、新たな文化の創造、発展を促進する。
- ・全日本地域選抜モダンダンスガラや富山国際アマチュア演劇祭、世界こども演劇祭、いなみ国際木彫刻キャンプなど、県民の意欲と熱意、地域の主体性と創意工夫によって開催される事業を支援するとともに、国民文化祭への参加を促進する。
- ・演劇、洋舞、吹奏楽、合唱など本県の優れた活動をリードする指導者に対する、チェコ、ハンガリーをはじめ国内外の優れた指導者による指導事業を充実し、さらに高いレベルの文化の創造と発信を図る。

<主な事業>

事業	内容
国際友好美術交流展開催	ハンガリー、中国、韓国等と4カ国で順に美術展を開催
世界こども演劇祭派遣事業 〔再掲〕	世界こども演劇祭に本県の団体を派遣
世界こども演劇祭等の開催 〔再掲〕	世界こども演劇祭、アジア太平洋こども演劇祭等を開催
いなみ国際木彫刻キャンプ 補助	国内外の木彫刻家による公開制作展示や交流事業に対する補助（4年ごとに開催。次回はH19）
芸術文化指導者招へい事業 〔再掲〕	音楽分野・舞台芸術分野の第一人者によるアマチュア芸術文化団体の指導

(3) 富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信

- 国内外に誇れる地域文化に県民が自信を持ち、できるだけ多くの県民がその発信の担い手となるよう努める。
- 景観づくりの主役である県民等とともに、都市や農村等の地域の個性を生かした景観形成施策を推進し、美しく魅力ある景観づくりを進める。

ア おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信

- ・富山県が有する特色のある歴史、伝統文化、伝統工芸、生活文化などについて、県民一人ひとりの理解を深め、再認識を進めるとともに、広く発信を進める。
- ・おわら、麦や、こきりこ等全国に誇れる郷土芸能の発信を促進する。
- ・高岡の金工、漆芸、井波の木彫刻など、全国、世界で高く評価される優れた作

品の創造、発信を促進する。また、世界遺産五箇山の合掌造り集落、砺波平野の散居など農村、山村、漁村、町並みに関する伝統文化の情報なども発信する。

- ・出町子供歌舞伎曳山（砺波市）など本県の伝統文化を象徴する遺産の継承・振興を支援する。
- ・とやま文化財百選事業等による地域の再発見と文化財の普及を行うボランティアの育成を図る。

<主な事業>

事業	内容
(新)「とやまの未来遺産(仮称)」選定事業	次世代に受け継ぐべき自然、建造物、伝統文化等の選定・PR等
とやま文化財百選事業	後世に保存・継承すべき文化財を選定

イ 美しく魅力ある景観づくり

- ・特に優れた景観を有する地域や新たに優れた景観を創造していく地域を指定し、景観づくりを重点的に進める。
- ・大規模な建築物等の建設や開発行為等を行う者に対して、地域の景観、伝統や文化に調和したものとなるよう誘導する。
- ・地域の景観、伝統や文化に調和した公共事業を実施するとともに、多自然型川づくり、道路緑化、無電中化等の推進によりうるおいのある景観づくりを進める。
- ・地域住民に親しまれ、優れた景観を形成している建造物や優れた景観を眺望できる場所を指定、保全することにより、多様で豊かな景観づくりを進める。
- ・砺波平野の散居景観など地域の誇りとなる景観を次世代へ守り伝えようとする住民の取組みを支援する。
- ・良好な景観、風致を阻害する屋外広告物について適正化を図るとともに、優良な屋外広告物の設置を誘導する。
- ・県民参加による景観づくりを進めるため、講演会の開催や景観アドバイザーの派遣など普及啓発・支援策の積極的な推進を図る。
- ・景観上、問題のある地域について、計画的に是正、誘導を図る。

<主な事業>

事業	内容
うるおいある景観づくり推進事業	景観づくりの普及啓発、重点地域やふるさと眺望点の指定等
(新)美しいまち並みづくりに向けた取組み	景観に配慮した屋外広告物のあり方を検討し、モデル地区における屋外広告物の除去、書替えに対する支援

(新)「水辺のまち夢プラン」の推進	まちづくりの主体である市町村や民間団体等とともに行うまちづくり、地域づくりと一体となった活用施策の推進
散居景観保全事業	「散居景観を活かした地域づくり協定」が結ばれた地区に対する枝打ち費用等の補助
(新)散居村ミュージアム支援事業	各種啓発活動やボランティア活動の拠点となるミュージアムの運営の支援

ウ 富山の魅力を知る・学ぶ機会づくり

- ・ 県民や県外の多くの人々に、富山の伝統文化や新たな文化の隠れた魅力・うんちくをはじめ、とやまの自然、文化、伝統、産業等の幅広い魅力を再発見してもらう機会として、とやまの検定の取組みを推進する。
- ・ 本県の自然環境や歴史・文化等を活かし、県外の人々にも魅力的な質の高い学習講座を開催する。

<主な事業>

事業	内容
(新)とやまの魅力再発見・再生支援事業 (とやま検定の支援)	民間が主体となつて行う、とやまの魅力再発見・再生の取組みにあわせた、県民自身による富山の魅力の再認識に向けた広告PR等
(新)学び楽しむ「とやま夏期大学」開催事業	本県の自然環境や歴史・文化等を活かした質の高い学びの場として、大都市圏等の住民にも魅力のある講座の開催を支援

(4) 情報通信等技術を活用した文化の創造と発信

○新しい情報技術を積極的に利用し、映像その他の芸術文化情報のデジタル化、コンテンツ化を図るとともに、それらの活用による文化の発信に努める。

ア バーチャルミュージアム、総合ポータルサイトによる情報の発信

- ・ 美術、動画、音楽など幅広い分野のコンテンツを収蔵するバーチャルミュージアムや、富山の芸術文化情報を総合的に発信する総合ポータルサイトの構築を推進する。
- ・ 県内にある多くの文化の創作物、遺産などのデジタル化、データベース化を進め、情報通信技術を活用して、一元的に提供できる体制を整える。
- ・ 本県の情報通信基盤を活用して、全国や世界に発信する映像などのソフトコンテンツの創作拠点づくりを推進する。
- ・ 県民の映像文化継承意識の高揚と映像ボランティアによる記録映像の集積を図

る。(16ミリフィルムのDVD化及びその保存や活用を推進)

- ・映像フェスティバルや映像祭への参加の推奨と内容の充実を図るとともに、映像に親しむ人材(映像ボランティア)の育成と研修(講座)の充実を図る。

<主な事業>

事業	内容
とやま映像祭の開催	県や県内放送局が制作、所蔵する富山の自然、文化等の映像を、文化ホールで放映
富山県映像センター事業の充実	視聴覚教材の制作、収集、既存の文化・歴史などの映像資料のデジタルアーカイブ化
「とやまオンライン映像館」による情報提供	文化催事等の映像のライブラリーの充実やライブ中継の実施
地域文化資産ポータルサイトの活用	地域の伝統芸術等に関する映像を公開する(財)地域創造のポータルサイトの活用
文化財・環境地理情報システム(GIS)事業	埋蔵文化財包蔵地、指定文化財、国立公園等をデジタル地図上に表し、インターネットで配信する地理情報システムの運用
文化遺産オンライン(文化庁)への参加	国や地方の文化遺産情報を公開するインターネット上のポータルサイトへの参加

イ 新しいメディア等を活用した文化の発信

- ・各種報道機関との連携強化により、文化の発信を促進する。
- ・インターネット等新しいメディアを活用したPRを促進する。
- ・映像、音楽、アニメなどデジタル技術を活用した芸術作品の創造を促進するとともに、発表の場を確保するなどその発信を図る。
- ・顕彰により、県内の優れた活動を発掘するとともに、その活動が全国レベルの評価を受けられるよう積極的な発信に努める。
- ・優れた活動を行う文化団体を積極的に国内外へ派遣し、発信を図る。
- ・伝統を基盤とし、情報通信技術など新しいものを取り入れながら優れたものを創造する風土を発展させる。
- ・情報通信技術を県民自らが活用して、自然や歴史文化をいつでもどこでも学ぶことができる環境の整備を促進する。

<主な事業>

事業	内容
芸術家・芸術団体情報データベース(文化庁)への参加	全国的な芸術家・芸術団体の情報や特色ある文化芸術活動情報を掲載・発信するポータルサイトへの参加

3 文化と他分野の連携

(1) 文化振興と観光振興

○優れた文化、すばらしい魅力のある文化を多くの人に共感してもらい、人が交流する県とし、観光との連携による文化振興と地域の活性化を図る。

ア 文化を活かした観光の振興

- ・文化遺産、伝統芸能等の文化を活かした観光資源を発掘・活用し、旅行ニーズに応じた観光モデルコースを開発・PRするとともに、まちづくり等との連携による総合的な観光の振興を推進する。
- ・文化振興と観光振興の連携を図ることにより、地域文化の本当の魅力を伝える観光や、観光を活用した地域文化の発信を促進する。
- ・おわら風の盆、世界遺産五箇山の合掌造り集落など、本県の代表的な観光資源のさらなる観光活用を図るために、交通アクセス、街並み整備など、観光客の受入基盤の整備をさらに促進する。
- ・出町子供歌舞伎曳山（砺波市）など全国的なアピールが可能でありながらそのポテンシャルが十分活かされていない文化資源について、それ自身のブラッシュアップを図るとともに、近隣の観光資源や他の文化資源との組み合わせにより新たな観光モデルコースの開発・PRに取り組むなど観光活用を図る。
- ・空き家を活用して滞在し伝統芸能を学ぶ体験型ツアーの企画・PRなど、新たな工夫を促進する。
- ・緑豊かな富山の農山漁村地域において、その自然・文化・人々との交流等を楽しみながらゆとりある休暇を過ごすグリーン・ツーリズム（滞在型の余暇活動）を推進する。
- ・外国へのPRに取り組むほか、多言語表記によるパンフレット、サインの整備や外国語観光ボランティアの育成等受入態勢の整備を進める。
- ・伝統文化の観光への活用にあたっては、地域が一度に多くの観光客を受け入れることに限界もあり、通年観光への転換や、地域の祭りを楽しむ部分と観光のすみ分け、域外の人への見せる場の確保などを検討する。
- ・行政、観光協会、商工団体、地域住民、関連事業者等との連携による、文化資源の保存と活用を連動させる持続的な仕組みを構築し、祭りを担う地域の人的負担を軽減し、用具等の補修技術者の確保、担い手の技術向上を図る。

<主な事業>

事業	内容
(新)伝統文化の観光への活用 の促進	「伝統文化・観光活用懇談会」の方向性を踏まえ、重点的に取 り組む事業の検討
(新)提案公募型観光モデルル ート開発推進事業	各種団体等が自ら企画・提案するテーマ性を持たせた観光モデ ルルートの開発・PRへの支援
わたしの旅100選（文化庁） の選定プランの活用	わたしの旅100選に選定された旅プランの活用
(新)ふるさと資源ブラッシ ュアップ事業	地域のさまざまな資源を活かした伝承・保全活動やイベントな どをより一層拡充し、地域の活性化、交流人口拡大を図る取組 みへの支援
田舎再発見！ワクワク大作戦 事業	「とやま帰農塾」（田舎暮らし体験事業）、重点指定地域への補 助
(新)田舎めぐりグリーンツーリズ ム事業	県内の直売所や交流施設等を巡るスタンプラリーの実施
(新)上海市、遼寧省など中国 との観光交流の推進	上海向けテレビ番組作成、現地新聞・地下鉄での広告、海外旅 行業者等の本県への招へい

(2) 文化を活かしたまちづくり・地域づくり

○地域における文化資源の再評価や有効活用等による、文化を通じた住民や来訪者との交流を推進し、文化の力によるにぎわい創出に努める。

ア 地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進

- ・万葉の歴史的遺産や、立山信仰など地域の文化資源を活かし、にぎわいづくりの工夫や知恵の交流による橋渡しを図り、各地が連携して進める文化による地域振興を支援し、集客力を高める。
- ・まちづくりに文化を活かし、にぎわいを創出しようとする熱意ある県民や団体の自主的な活動を支援する。
- ・地域の文化資源を発掘、再認識、再生するとともに、その魅力を県外や海外に向けて発信することにより、交流人口や定住・半定住（首都圏等と富山の両方に住居所有、長期滞在、週末ごとの反復滞在等）人口の拡大による地域の活性化を図る。

<主な事業>

事業	内容
まちなみアートルレー	特色ある街並みを活かし、生活の中に文化を取り入れた、県内各地の「まちなみアート」への支援
まちの賑わい拠点創出事業	地域が有する有形無形の資源を活用し商店街でまちのにぎわいを創出し商店街を活性化する事業に対する補助
(新)「とやまの未来遺産（仮称）」選定事業〔再掲〕	次世代に受け継ぐべき自然、建造物、伝統文化等の選定・PR等

(新)ふるさと資源ブラッシュアップ事業〔再掲〕	地域のさまざまな資源を活かした伝承・保全活動やイベントなどをより一層拡充し、地域の活性化、交流人口拡大を図る取り組みへの支援
(新)とやま地域イメージ・ブランディング事業	「富山」という地域を全国に印象づけるため、地域のブランドコンセプトの明確化、キャッチフレーズ、ロゴ等の作成に取り組む。
(新)「ときどき富山県民」推進事業	本県への半定住推進に向けた首都圏等の幅広い世代の意向調査、モデル事業の実施
(新)「とやまくらし体験」全国発信事業	大都市圏等の住民を対象とした本県での生活体験事業の参加者の声等を雑誌記事型広告の活用により、全国に発信
(新)とやまの魅力再発見・再生事業〔再掲〕	民間が主体となっていく、とやまの魅力再発見・再生の取組みに合わせ、県民自身によるとやまの魅力の再認識に向けた広告PR等を実施

(3) とやまの食の魅力のアピール

○とやま型「地域ブランド」戦略の一環として、本県の雄大で美しい自然環境、多彩な伝統、文化等に育まれた「とやまの食」の魅力をブラッシュアップするとともに、国の内外に情報発信する。

ア 食文化の魅力を全国に発信

- ・海・野・山の変化に富んだ標高差4千メートルの自然に育まれたブリ、シロエビ、ホタルイカ、カニ、コシヒカリ、氷見牛、名水ポーク、りんごなど全国に誇る素晴らしい食材と、かつて北前船で賑わった北海道との物資交流の拠点などとして形成された彩り豊かな食文化の伝統を活かした「越中料理」を継承、創作し、全国ブランドへの育成を図る。
- ・富山ならではの新鮮で多彩な食材や独自の食文化の魅力を深く体験できる県内の資源を選定し、「とやま食の街道」として全国に発信する。

<主な事業>

事業	内容
(新)食のとやま「越中料理」ブランド化推進事業	本県の食材を活用した富山の料理を開発・PRし、ブランド化を図る。
(新)「とやま食の街道」づくり事業	富山ならではの食材や郷土料理と歴史文化に親しむ「とやま食の街道」の設定を行い、食の魅力を全国に発信

(4) 文化を活かした産業の振興

- 文化の力を高め有効に活かすことにより、多くの人に受け入れられる商品、産業の創出を推進し、地域経済への貢献や交流人口の増大を図る。
- 最先端のものづくり文化を次世代に継承する。

ア 文化を活かした産業の振興

- ・文化を活かした地場産業や創意工夫を学ぶセミナー・交流会等の開催により、伝統産業やデザイン産業など文化に関連する産業の振興を図る。
- ・県総合デザインセンターを中心に、デザイナーや大学、産業支援機関と連携しながら、とやまの技術力を活かしたオリジナルの商品づくりを支援し、企業のデザイン力の向上を図る。
- ・「富山・ミラノデザイン交流倶楽部」への支援等により、ミラノのデザイン感覚と富山のものづくり技術を結びつけ、地場産業企業の魅力的な商品の創出につなげる。

<主な事業>

事業	内容
(新) 大学連携地場産業デザイン活用推進事業	富山大学が開講する「富山県産業デザイン経営塾」のセミナーや商品開発のためのワークショップ等を通じ、商品企画や商品販売のマーケティング戦略の理解を深め、魅力ある商品や独自ブランド等を構築し、県内企業の競争力の向上を図る。
(新) ミラノデザイン交流支援事業	イタリアミラノのデザイナーと、県内ものづくり企業との協働による魅力的な商品開発を進める「富山・ミラノデザイン交流倶楽部」への支援

イ 最先端のものづくり文化の創造

- ・三百年余りに及ぶくすりの伝統と電子・微細加工の技術を融合し、バイオ関連の新産業を育成するため、知的クラスター創成事業「とやま医薬バイオクラスター」など産学官共同プロジェクトによる研究開発を推進する。
- ・バイオ、深層水等の新商品、新事業創出のための産学官共同研究開発や企業の独自技術の開発やデザインを活用した魅力的な商品開発を支援する。
- ・高校生や大学生などに対して、大学、試験研究機関及び企業の研究者や経営者が最新技術や自らの経験を紹介するなど、将来のものづくり産業を担う人材の芽を育てるように努める。

- ・団塊の世代の大量退職に対応し、ものづくりを支える技能を継承するため、後継者の育成や技術・技法の伝承・発展等への支援を行う。
- ・わが国の社会における少子・高齢化、安全・安心、便利・ゆとり等の課題を解決するためには、ロボット技術の発展が期待されており、家庭における育児・家事・在宅介護の支援、職場における女性や高齢者の支援、災害・治安・医療現場における危険かつ高度な作業の遂行などへの活用が見込まれている。いやし効果の高いアザラシ型ロボット「パロ」のような、高度なものづくり技術と人の心や体に安らぎをもたらす機能との融合により、文化の視点を取り入れた次世代ロボット等の研究開発を推進していく。
- ・富山のものづくり文化の伝統を明らかにし、広く発信するとともに、小さな頃からものづくりを体験し、興味を持つための事業を展開するなど、子どもから大人まで県民各層がものづくりの楽しさ・大切さを理解するとともにその技術や伝統に誇りと敬意をもつ社会を形成し、ものづくりを担う人材の確保とものづくり文化の継承を図る。
- ・伝統工芸の保存・継承を図るため、現代の消費者のニーズに合った新商品やデザインの研究に取り組み、優れた技術技法に裏打ちされた伝統的工芸品の開発を進める。
- ・高岡市の「ものづくり・デザイン人材育成特区」の認定を契機に、県内各地で子どもによる伝統産業・地場産業の現場体験、実技体験などを進め、伝統を支えてきた先人の技と心意気を次世代に引き継いでいく。
- ・技能検定の普及拡大、優れた技能者の顕彰制度の推進や技能競技大会への技能者の派遣等により、ものづくり技能を尊重する気運を醸成し、ものづくりを担う人材の育成を促進する。
- ・県内の地場産業、伝統産業の地域ブランドを確立するとともに、蓄積された優れた技術を活かした新商品・新事業創出を促進するため、高等教育機関や公設試験研究機関、産業支援機関等が連携・協力を図り、技術や商品の研究開発、市場の開拓、人材の育成、低利融資や助成などの支援を、産学官が一体となって行う。

<主な事業>

事業	内容
知的クラスター創成事業	産学官共同の研究開発による「とやま医薬バイオクラスター」の推進
深層水産業推進事業	富山湾深層水関連産業振興のため、基礎・利用研究の推進、利用企業の開拓、新商品の販路拡大への支援等を推進

とやま元気起業促進事業費	重点研究分野の新商品・新事業開発のための産学官共同研究を促進するとともに、中小企業独自技術の開発や独自デザイン戦略による新製品開発を思念
起業家の卵育成事業	起業家精神を涵養し、起業の裾野を広げるため高校生、大学生、若者等を対象に経営者の講演等を実施
(新)地域ものづくり人材育成モデル事業	県職業能力開発協会にコーディネーターを配置し、地域におけるものづくり人材育成のためのモデル事業を実施
(新)知的財産戦略・科学技術プランの策定	富山県知的財産戦略の策定と新富山県科学技術プランの改訂
(新)ロボット技術開発支援事業	とやまロボット技術研究ネットワークへの支援、シンポジウムの開催
(新)大学連携地場産業デザイン活用推進事業〔再掲〕	富山大学が開講する「富山県産業デザイン経営塾」のセミナーや商品開発のためのワークショップ等を通じ、商品企画や商品販売のマーケティング戦略の理解を深め、魅力ある商品や独自ブランド等を構築し、県内企業の競争力の向上を図る。
(新)地域産業活性化事業	中小企業者・組合等が行う新商品・新技術開発事業や組合等が行う販路開拓事業等に対する助成

第6 文化振興のための体制づくり

1 多様な主体による連携・協働の仕組みづくり

県民主体の文化に関する鑑賞、参加、交流及び創造の機会を拡充するため、県民や芸術家、芸術文化団体、NPO、行政など地域社会を構成する各主体がそれぞれの役割を担い、連携・協働して事業を展開する。

・文化ボランティア養成事業をとおして、施設の運営・企画を支えるサポート組織を充実する。

・施設がコーディネートして、学校、地域、団体と連携して取り組む事業の提案や、連携の取組みについて情報交換し、交流を図る取組みを推進する。

・企業、NPOなど文化を支援する主体による取組みを活かし、地域の文化団体の活動のエネルギーと経験を施設の運営に活用する取組みを促進する。

・地域の創意あふれる取組みや特色ある運営について、情報交換し、交流する機会を確保し、連携する取組みを支援する。

2 多様な意見を反映する仕組みづくり

文化振興のための施策形成や事業実施に際しては、文化審議会や有識者並びに県民世論調査等により多様な意見の反映に努める。

・文化審議会において、文化事業の効果の把握に努め、各施策を評価し、事業計画に反映する。

・文化団体、文化施設から意見を随時聴取し、事業や施設の運営について、現地で状況の把握を行い、文化施設の運営や文化事業の評価に対する意見を集約する。

3 国や市町村等との連携体制の確立

① 国の文化政策との連携

文化庁等、国の文化政策に対して積極的に提言し、地域における特色ある文化施策を推進するとともに、国と協力して地域における文化振興に努める。

・ホームページや事業記録等の広報手段を通じて、国の内外に、県の文化施策や特筆する事業をアピールするとともに、国への提言や働きかけを積極的に行い、国等の地域における文化振興の支援施策に反映されるよう努める。

② 市町村との連携

市町村における文化事業、文化団体等についての市町村からの相談窓口となり、その文化施策と必要な連携、協力を行う。

・地域における文化事業への支援施策等に関する相談の機会を確保し、必要な場合、地域、施設、学校等に対して文化活動や施策の推進のための芸術文化に係る指導者、アドバイザー等を派遣する。

③ 県の各部局の連携、協力

県の各部局の文化に関わる事業の連携、協力を図り、県が地域における文化のコーディネーターとしての役割を担い得るよう努める。

本計画に基づき、県の文化施策を総合的に推進することとし、特に「文化と他分野の連携」については、複数の部局にまたがることから、十分連携を図り、総合的な文化振興の推進を図る。

・県の各部局の文化に関する事業の連絡調整をあらかじめ十分行い、各事業の推進に当たり必要な連携、協力を努める。

・文化財の活用、学校教育における文化に関わる教科及び教科外での指導法の研究と教材化、総合学習における文化面での指導方法等について、教育委員会と協力して、学校との連携のための取組みと推進する仕組み作りの促進を図る。

用語解説

・メディア芸術 (p.4)

映画、漫画、アニメーション及びコンピューターその他の電子機器等を利用した芸術。

・(財) 舞台芸術財団演劇人会議 (p.13)

利賀に主たる事務所を置く全国法人。地域における舞台芸術の活性化などを設立趣旨とする。理事長は演出家・鈴木忠志氏。

・県公立文化施設協議会 (p.20)

公立文化施設が相互の連絡、研究によって、その機能を十分に発揮し、地方文化の向上に資することを目的とする協議会。県立 6 施設を含め、県内 34 施設が加盟している。

・文化ホールネットワーク事業 (p.20)

県民の芸術鑑賞機会の充実や文化ホール相互の情報交換の促進、企画運営能力の向上など文化ホールの活性化を目的に、県内の公立文化ホールが共同で公演等を実施する事業。

・利賀サマー・アーツ・プログラム (p.29)

(財) 舞台芸術財団演劇人会議が利賀芸術公園で毎夏約 1 ヶ月に渡って行う企画。舞台芸術のさまざまな要素を総合的にとらえ、作品上演・演出家コンクール・演劇体験プログラム・ワークショップなどを行う。

・BeSeTo 演劇祭 (p.29)

日本、中国、韓国の 3 ヶ国による国際演劇祭。“BeSeTo”とは、中国、韓国、日本の首都である Beijing (北京)、 Seoul (ソウル)、 Tokyo (東京) の頭文字である。

- ・日露文化フォーラム (p.30)

2001年の鈴木忠志氏とプーチン大統領との会談が契機となり、日露文化芸術の幅広い交流を促進しようとするロシア側の呼びかけにより2004年6月に設立。日露両国の文化交流通じた相互理解を深めることを目的とする。両国の政治家や舞台関係者が委員を構成する。

- ・とやま文化財百選 (p.30)

地域の宝として地域住民に親しまれている数多くある文化財の中から、郷土の誇りとして後世に保存・継承すべきものを選定委員会を設置し、選定している。

「とやまの土蔵」(H16)、「とやまの獅子舞」(H17)

- ・バーチャルミュージアム (p.39)

デジタル画像による仮想現実の美術館

- ・アウトリーチ事業 (p.53)

アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。芸術文化の観点では、日頃、芸術や文化に触れる機会の少ない市民に対し、芸術団体や文化施設が働きかけを行うことをいう。

アウトリーチ事業には、文化施設等が文化施設以外の学校、公民館などで行う出前公演、体験・創作型ワークショップ、子ども、親子向け鑑賞事業などがある。

- ・ポータルサイト (p.54)

ユーザーがブラウザの起動時に、最初に開くサイトのこと。いろいろなニーズに対応するため、各種の情報を取り揃え、その利便性を図っている。また、ある特定の情報に関して、その情報そのものを収集、展開し、リンクへの起点となっているページ。

- ・フランチャイズ制 (p.54)

墨田区(すみだトリフォニーホール)と新日本フィルハーモニー交響楽団、川崎市(ミューザ川崎シンフォニーホール)と東京交響楽団のように、地方公共団体とオーケストラがフランチャイズ契約を行い、オーケストラがホールを拠点として活動する一方、地域住民のため、出前コンサートや公共スペースでの演奏会を行う制度。

- **企業メセナ (p.56)**

メセナ (mecenat) は、芸術文化支援を意味するフランス語であり、企業メセナとは、企業による芸術文化支援である。

- **舞台芸術特区 TOGA (p.60)**

「演劇の利賀」として国際的に知られる利賀芸術公園一体を区域とする構造改革特別区域。劇場の芸術性をより高めるための誘導灯に係る特例の適用や国際舞台芸術人材育成事業の展開などにより、「世界演劇の拠点」づくりに取り組み、「富山から世界へ質の高い舞台芸術を発信」している。

- **スズキ・メソッド (p.60)**

舞台俳優の基本は呼吸と下半身の集中力を養うことから始まる。日常生活の中で退化させてしまった身体感覚を活性化することを目的とする、鈴木忠志氏によって創り出された俳優のための訓練法。世界の劇団や大学等で学ばれている。

- **アートマネジメント (p.60)**

芸術に関わる事業や文化施設・芸術団体の管理運営や、そのために必要な知識や技術のこと。広くは、芸術の社会展開を図ることをいう。

- **芸術監督 (p.61)**

運営の責任者とは別におかれる芸術上の責任者であり、文化ホールの事業を特定のコンセプトのもとで総括するなどの役割を担っている。

県内の文化施設等の現状と課題

1 県立文化ホール

県内には6館の文化ホールがあり、そのうちの5館は、県中央部、東部、西部の中心都市に設置され、県域、広域の中核的な文化活動の拠点として位置付けられている。

施設名	現状と課題
県民会館 <昭和39年開館>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の中心地に位置し40年以上の歴史を持つ県文化活動の中核施設で、1,217席のホールと、美術館、ギャラリー、展示場、会議室を備えた複合施設である。 ・ 舞台公演や美術展などを併催した総合文化フェスティバル（県民芸術文化祭・県高校文化祭など）、大会やシンポジウムなどにも利用され、日展、院展など日本を代表する美術展の巡回展が定期的に開催される。また、日常的に県の各種会議、県内美術団体の展覧会などにも利用されている。 ・ 平成6年度に2回目の大規模改修を行っているが、中長期的視点に立って計画的に改修を行っていく必要がある。 ・ 県の刊行物やコンサートチケットなどの販売が行われるなど、県内の催事情報の発信拠点でもあることから、情報提供機能の拡充が課題である。 ・ 県の助成を受けて平成17年10月からスタートしたチケット販売システムの本格的な利用に向けて、県公立文化施設協議会とも連携しながら普及に取り組む必要がある。 ・ ホールでは全県域を対象とした舞台公演等を開催するとともに、美術館では、県内作家の回顧展や、全国美術団体の巡回展などを自主文化事業として開催しているが、ホール、美術館、展示室とも貸館による県民や興行主の利用が主体となっている。 ・ ホール、展示室とも、県民の利用の要望が多いため、利用しやすい運営面の努力がさらに期待されるとともに、県の文化施設の情報、交流のネットワークの中心としての機能が期待されている。また、人が絶えず集まる仕掛けを工夫することによるさらなる<u>にぎわい</u>の創出が望まれる。

<p>高岡文化ホール 〈昭和 61 年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県西部における芸術文化振興のための拠点施設として、ホール、多目的小ホール、ギャラリー、展示場、会議室及び和室を備えた複合施設で、700 席の大ホールと 300 席の多目的小ホールは、地域の芸術文化団体の舞台発表に最適規模のホールである。 ・ また、大ホールの舞台は奥行き、袖ともに十分な広さがあるとともに、袖に搬入口が直結していることから、利便性が高く、他の文化ホールと比較して、客席数に対し舞台設備の水準が高く、舞踊、演劇などの舞台芸術の発表の場として評価が高い。 ・ 築 20 年を経過し、施設の計画的な改修を行っていく必要がある。 ・ 自主文化事業では、主に高岡市内外の企業家等有志を中心とした会員制組織である「音楽友の会」との共催による、民間主導でコンサートが実施されている。具体的には、会費と協賛金及び一般販売チケット収入を財源に、文化ホールスタッフが協力してコンサートを実施する運営形態となっている。 ・ 地域の音楽愛好家を中心となっていることから、結果として、地元で気軽に質の高い音楽を鑑賞し、幅広い音楽愛好家層を満足させる内容の自主企画、自主運営につながっている。 ・ また、その他の自主文化事業では、地元の各流派が同じ舞台に立つ能楽鑑賞大会や、郷土の音楽家を育てるズームアップコンサートなどが特筆される。 ・ 今後とも、芸術文化に熱心で、優れた文化資源を多く有する地域の中心に位置する文化ホールとして、地域の優れた芸術文化人や愛好者との連携を図り、その協力による事業運営が期待される。 ・ しかし、近年、舞台芸術専門スタッフの支援に対する利用者ニーズが年々高まっているが、職員の人員不足などにより、ニーズに十分応えられない状況が出てきている。
<p>新川文化ホール 〈平成 6 年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県東部地区で最大規模を誇る文化ホールとして開館してから 10 年を経過した。 ・ 大ホールは 1,186 名の客席を有し、ホール内の残響音を任意に可変（1.3 秒～2.1 秒）できる残響可変装置を備えた県内唯一のホールである。 ・ 音響効果の優れた大ホールでコンサートピアノ（ベーゼンドルファー）を使用したピアノ演奏の CD 録音会場として、年間 12 日間の利用がある。このホールで録音された CD は 6 枚が全国で発売され、

	<p>この中から4枚がレコード芸術（月刊誌）で特選となるなど録音会場として高い評価を得ている。また、県民に対しては、ホールにおいてコンサートピアノによる練習利用の貸し出しなど、広い空間ならではの感覚と感動を体験できる企画を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小ホールは客席297席で、演劇など市民アマチュアレベルで使いやすい施設として評価が高い。 ・展示ホールは約1,000㎡の無柱のすっきりした空間で、大型の搬入エレベーターにより運搬もスムーズで、地区美術展の優秀作品を展示する「にいかわ美術展」など地域の芸術文化の向上を目指す事業を展開している。 ・広い駐車スペースを有し、広域利用を前提とした施設だが、黒部、入善、上市など隣接市町にも優れた施設と特色のある活動を行う文化ホールがあるため、周辺市町からは十分活用されていると言えない。 ・魚津市以外からの利用者が14%に過ぎず、交通手段が自家用車かコミュニティバスに限られることから、催事のない日などのさらなる活用が課題である。 ・広い芝生広場を有しているが、日常的に人が賑わう憩いの場とはなっていない。年に2回程度行われる野外コンサートなどのイベントでは多くの人で賑わっていることから、定期的なイベントを仕掛けるなどの工夫が必要である。 ・魚津市が主体となって、旧洗足学園魚津短大校舎を、音楽、生涯学習等を中心とする練習専用施設として活用した、新川学びの森天神山交流館が開設されており、今後は、同施設との連携を図ることにより、練習と発表の一体的な活用が期待される。 ・新川文化ホールでは、県民主体の文化活動が積極的に展開されており、地域で活動する団体の発表機会と交流促進の場として <ol style="list-style-type: none"> a. 「かずみ野音楽祭」、「ウィンターマーチング」、「バレエパフォーマンズ イン 新川」 b. 平成8年の国民文化祭開催がきっかけとなった県内外のプロやアマチュアの人形劇団等による小ホールでの「にんぎょうシアター」 c. 地域の中学生吹奏楽のレベル向上を図る「ミラージュ・ジュニア吹奏楽クリニック」
--	--

	<p>d. 優れた音楽空間の活用によるクラシックやポピュラーなどの音楽コンサート、演劇</p> <p>e. 地域の小中学生に日本の奥深い伝統芸能に触れる機会を提供する「伝統芸能鑑賞会」</p> <p>などホールの友の会組織などの地域の要望に応じた幅広いジャンルの鑑賞事業が開催されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、地域の企業によるサポート組織である、新川文化ホール振興協議会（約 150 社）が組織され、会費で毎月 2 回程度、土曜日の 12 時からロビーでミュージックランチコンサートを実施し、若手演奏家に発表の機会を提供している。 ・平成 16 年度から、企業の活力と資金の提供を受ける「企業メセナ文化ホール事業」にも取り組んでいる。 ・旧洗足学園魚津短期大学学長で、県芸術文化アドバイザーの中博昭氏(元N響コントラバス首席奏者)の監修のもと、NHK交響楽団の弦楽メンバーらによる「ミラージュ・アンサンブル」が結成され、県民のリクエストに答える定期コンサート（年 2 回）が、新川文化ホール振興協議会との共催のもとに実施されている。 ・開設以来、県、市の補助を受けた事業の展開により、ホール事業の集客状況は年々改善しているが、利用率は 50%程度と低い。 ・地域における県民主導の文化事業の盛り上がりが見られるなどホール開設による変化が見られるが、文化ホールの活用と地域の芸術文化団体と連携した文化活動の促進の努力がさらに期待されている。
<p>県民小劇場 （オルビス） 〈昭和 62 年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山駅前の商業ビルの最上階に立地する演劇等の室内公演向きの小ホールで、通勤者や学生、高齢者の利用にも便利であり、文化を活用したにぎわい創出を演出する文化施設として期待され、駅前都市再開発により設置された施設である。 ・ホールは円形でフラットな床面を 10 分割して、舞台演出に合わせて、舞台と客席を多彩なパターンでレイアウトが可能であるなど全国的に見ても大変ユニークな施設であるとの評価を得ている。 ・この施設では、舞台と客席との一体感が得られ、客席を外せば 200 m²のフラットなスペースとして練習やワークショップの利用、アマチュア劇団などの創作発表の場として最適で、高校生演劇部、大学生、アマチュア演劇団体など多くの若者に利用されている。 ・年間を通した会員制のプログラムにより、県民に舞台芸術の魅力、

	<p>面白さを再発見させる機会を提供することを狙いとした、鑑賞とワークショップ等観客の参加も可能な事業を展開するほか、アーティストの協力による学校への出前公演などにも取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、小ホールであることや、恵まれた立地などのホールの特性を活かし、軽音楽、演劇など、少人数で楽しめるプログラム、参加型企画、地元の若者文化を育てるプログラムなどホールの利用者を増やす試みが期待される。
<p>教育文化会館 〈昭和 49 年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育棟、文化棟を持ち、県内文化団体や生涯学習団体が入居する施設である。客席 700 席のホールと集会室を有し、大ホールに匹敵する照明、音響などの舞台機構や所作台などを持ち、日本舞踊、青少年伝統芸能祭など、県内文化団体の発表を中心とした自主文化事業を開催している。伝統芸能をはじめ、県内文化団体の発表や教育団体、生涯学習団体の大会の会場等として多く利用されている。 ・ 教育棟 5 階にはハイビジョンの映像施設が設置されており、映像に関する教育普及活動を行う映像センターが併設されていることから、今後とも映像祭などの自主文化事業を開催するなど、新たな映像普及拠点としても期待されている。 ・ また、入居している芸術文化団体等との連携による文化普及活動の振興が課題である。
<p>利賀芸術公園 〈平成 6 年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演出家の鈴木忠志氏が、過疎化により廃屋となった合掌づくり家屋を磯崎新氏の設計により改装し、劇空間として生まれ変わった利賀山房を、前衛演劇の練習と発表の場として活用し、毎年、世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催してきたことから、演劇の利賀として世界的に有名となった。 ・ 平成 6 年に県立化された公園内には、周辺の池や山、森の風景を取り込んで、磯崎氏の設計と勅使河原宏氏の作庭によるギリシャ風の野外劇場が建設されており、この野外劇場は、例年、夏の野外劇の舞台となり、国内外から多数の観客を集めている。 ・ また、平成 6 年の県立化に際しては、公園の舞台芸術による通年利用を目的として、暖房施設をもつ新利賀山房を新たに建設し、現在は（財）富山県文化振興財団による運営によって、年間を通じた国内外の著名なプロ劇団や若手演劇人の公演とワークショップ等の舞台芸術のフェスティバル、県内文化団体による公演などが実施されている。

- ・同公園での国内の劇団による演劇公演事業の開催と、舞台芸術の普及と芸術家の連携を図るため、平成12年に鈴木氏が中心となり、全国法人である（財）舞台芸術財団演劇人会議が立ち上げられ、同法人とともに、国内の著名な多くの演劇人、芸術家、劇団の出演、協力による多彩なフェスティバルが開催されてきている。
- ・また、鈴木氏の国際的な演劇の人的ネットワークを通して、中国、韓国、日本の著名な演出家による相互交流と演劇公演の発表を行うBeSeTo 演劇祭、日本とロシアの芸術交流の推進を目的とする日露文化フォーラムなどの国際交流事業も展開している。
- ・県と南砺市では、世界的に高く評価されている利賀フェスティバルや合掌づくりの民家を舞台としたユニークな演劇公演の場を、「舞台芸術特区」として、演劇専用の劇場としての活用をさらに促進するため制度改善に取り組んでいる。
- ・同公園を拠点として、ロシアやアメリカをはじめ、世界的に高く評価されている鈴木氏による演劇理論であるスズキ・メソッドをもとに、演劇教育を行う人材育成事業が展開されている。
- ・中学生や高校生を対象とした鑑賞教室やワークショップ、大学生を対象とした人材育成事業など、若い層への普及の取り組みが行われている。
- ・利賀における演劇活動の存在や優れた施設の内容については、全国的な知名度に比べ、必ずしも県民に広く知られている状況にはない。
- ・このことから、観劇のための県政バス等の活用や普及事業による県民への幅広い周知とともに、県内の文化施設や文化資源、観光地との連携を図ることなどにより、県外の観客の県内での回遊や、観光客への周知に努めることが課題である。

2 市町村立文化ホール等

(1) 主な市町村立文化ホール

<p>黒部市国際文化センター (コラーレ) 〈平成7年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内文化ホールの中で最も自主文化事業の開催数が多く、ホールの専門スタッフが市民の要望を取り入れ、市民参加型の企画運営を目指している。 ・ 狂言、演劇、音楽などのプロ公演を、ホールの専門スタッフが出演者の事務所と直接交渉し、市民の要望に即した事業内容として展開している。 ・ また、地元出身の映画人の協力により、年間を通し定期的に世界の名画を見る会を開催するほか、地域の子どもたちを対象にして、キーボード、演劇、合唱の指導を行い、発表する事業を展開している。 ・ ホールを運営する財団は、地元企業の支援も受けて設立され、企業、市民の協力により運営している。
<p>入善町民会館 (コスモホール) 〈昭和61年開館〉 北アルプス文化センター (上市町) 〈昭和60年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優れた音響効果を有する文化ホールとして、国内外の音楽家から注目されており、最新のデジタル録音の妨げとなる騒音がなく、集中できる環境からウラジーミル・アシュケナージも高く評価し、音楽業界で広く知られるところとなり、世界的な演奏家の公演やCD録音の利用が増えている。 ・ また、地方で本物の芸術を体験する機会を提供する公演や若手演奏家が滞在して公演する支援プログラムなど行っている。
<p>射水市小杉文化ホール (ラポール) 〈平成5年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優れた音楽ホールとして、オーケストラアンサンブル金沢等の公演や、館長の企画によりホールを練習、公演の場とする優れた吹奏楽団の設置、ホールのロビーを無料開放して行う小公演など、地域の優れた文化土壌に支えられた特色ある事業が展開されている。
<p>富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール) 〈平成8年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山市芸術文化ホールは、三面半舞台を備え、5階席までの、2,200人を収容できる本格的なオペラ劇場ホールとして開場し、国民文化祭を皮切りに、大規模なイベント、コンサート会場として利用されている。 ・ 著名な興行劇場での経験豊富な舞台技術者を置き、当初は芸術

<p>富山市民芸術創造センター 〈平成7年開館〉</p>	<p>監督、現在はプロデューサーを置いて、内外のプロのキャスト・スタッフによる芸術劇場、県内団体を中心とする市民ミュージカルなど、規模の大きな優れた舞台公演を創造している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、文化庁の「文化のまちづくり事業」や「芸術拠点形成事業」などに採択されているほか、新国立劇場とのネットワークや国内外の著名な音楽コンサート、舞台芸術公演を開催している。 ・同ホールでは、市民ミュージカルやオペラなど一部意欲的な創造事業も実施しているが、県外に発信するレベルでの創造事業の企画があまりなされないなど、その先進的で大規模な舞台機構が十分活用されているとはいえない。 ・市内呉羽には、音楽専門学校の桐朋オーケストラ・アカデミーに隣接し、旧紡績工場を改装した音楽と舞台芸術の練習専用施設である富山市民芸術創造センターが開設されている。 ・舞台稽古場には、オーバード・ホールの舞台と、大きさ、照明、音響などの舞台機構を同じくする練習場を持ち、劇場公演の創造環境も整備されている。 ・また、音楽専用のリハーサル室、大中練習室、音楽専用の練習用の個室などを多く備え、市民に開放されているため、県内文化団体や個人が多数利用し、県民の文化活動の振興に大変貢献している。
<p>福野文化創造センター (へリオス) 〈平成3年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円形の床面のフラットな構造を活用して、住民の若手世代の活動を核に、ホール職員が協力して、海外のスチールドラムのバンドを毎年招へいして、地域の音楽イベント、地域のフェスティバルとして育てあげてきている。 ・その特色ある民族音楽、現代音楽の事業展開の実施の中で、地域住民による音楽演奏者グループが結成され、国際交流も行っている。また、文化ホールネットワーク事業を通じて、他ホールと連携した音楽事業の企画運営を行っている。
<p>クロスランドおやべ 〈平成6年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広告業務で活躍していた県外の専門家を館長に招き、ジャズ、ポピュラー音楽や人気芸能の演目などの事業を開催するほか、市民ロックバンドの練習、公演などの実施にも取り組むなど特色ある活動を行っている。

射水市新湊中央文化会館 〈昭和56年開館〉	・県内でも比較的早く開館した1,220席の客席を有する本格的文化ホールであり、市民合唱団による第九コンサート等の開催やミュージカル、歌舞伎の開催など活発な事業を展開し、市民も加わった会議により運営され、事業の総支出額に占める入場料収入額の割合は57.2%（H15）と県立館なみの事業成績をあげている。
氷見市民会館 〈昭和38年開館〉	・事業数は少なく、施設も老朽化しているが、地域の氷見市芸術文化協会に自主文化事業の運営を委ね、事業の総支出額に占める入場料収入額の割合は88.3%（H15）と県内で最も高い。
高岡市民会館 〈昭和41年開館〉	・高岡市民会館は、事業数が少ないものの、熱心な運営を行う文化ホールとして、館長の企画により、地元出身や県外の優れた芸術家との共同による作品創造で注目されている。
砺波市文化会館 〈昭和57年開館〉	・砺波市文化会館は、地域の音楽愛好団体や劇団などの協力を得て、地域や団体の交流による自主文化事業、音楽や演劇の指導事業など意欲的な自主文化事業を開催し、地域の文化ホールとして親しまれている。

（2）その他の公立文化施設ホール

その他、高岡市ふくおか総合文化センター（Uホール）、婦中ふれあい館など熱心な職員と住民ボランティアの参画により、舞踊、音楽をはじめ、指導事業などの意欲的な企画で注目されることもある。

（3）公立文化施設以外のホール等

県公立文化施設協議会加盟館以外にも富山市内を中心にコンベンションや福祉等他の施策のためのホールや民間のホールが多数ある。

北日本新聞ホール（300席）やタワー111スカイホール（491席）では、音楽、舞踊、講演会などの事業が行われ、その他、富山市内では、富山県民共生センター（350席）、ゴルフアートとやま（500席）、富山県総合福社会館（サンシップとやま、300席）、富山商工会議所（180席）、明治安田生命ホールほか企業に付随するホールや公民館等がある。

それぞれ、大会の開催のほか、文化団体の発表会等にも利用されている。また、ホテルの宴会場を活用した発表、講演、コンサート等が開催されることもある。

3 県立美術館・博物館等

(1) 主な県立美術館・博物館

施設名	現状と課題
近代美術館 <昭和 56 年開館>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 20 世紀以降の美術の流れを展望するコレクションをはじめ、現代美術を常設展示作品の中心に据えており、全国から高い評価を得ている。</p> <p>県民に親しまれる美術館を目指し、魅力ある企画展や、工夫を凝らしたイベントの開催による施設利用者の増加を図る必要がある、広報、宣伝活動の拡充・強化が必要である。</p> <p>・ 20 世紀美術の流れを確かめ、21 世紀美術の動向を展望するため、世界、日本、富山の視点から、代表的作家たちの作品を紹介する展覧会を企画開催するとともに、その作品の重点的、系統的収集に努めている。</p> <p>特に、美術の流れを確かめ発展させるため、引き続き作家たちの業績の検証に努めるとともに、将来を担う若い作家たちの活動を支援していく必要がある。</p> <p>・ 世界ポスタートリエンナーレトヤマは、世界各国からも 3,000 点を超す応募があり、世界有数の国際公募ポスター展として高い評価を得ている。この展覧会に合わせ、平成 15 年度より、富山商工会議所と連携して「ポスターの街・とやま」を実施し、市街地でのポスター展示やワークショップを行うことにより、街に<u>にぎわい</u>を創出し、街の活性化に大きく貢献している。</p> <p>・ 児童・生徒の作品製作・展示やワークショップ、学校一日美術館など、学校教育と連携した教育普及活動を展開している。平成 14 年からは、独自に開発した教育用鑑賞教材を活用するキッズコーナーを開設した。県民が参加しやすい体験型事業の実施や児童・生徒向け教育プログラムの開発・展開など、教育普及活動を充実させる必要がある。</p> <p>・ 昭和 56 年の開館以来、わたしたちの壁画、トライアートなど、県内すべての小中学校を対象に教育普及活動を展開しているが、今後、児童・生徒の創造発信の場として様々な企画を検討する必要がある。</p> <p>・ 他の美術館への作品の貸し出し、公共施設における展示、子ど</p>

	<p>も向けの作品解説パンフレットの作成、ボランティアによる解説、美術館グッズの販売など、様々な活動を展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の会組織の拡充と魅力ある活動の展開への支援を行うとともに、展示作品のガイドや美術講座等の運営補助を行うボランティアの養成、育成が期待される。 ・市中心部から離れているが、市電、市内バスの公共交通機関に加え、17年3月から、無料のミュージアムバスが運行されている。
<p>水墨美術館 〈平成11年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水墨画を中心とする日本文化特有の美を紹介する特色ある美術館であり、県内外から高い評価を受け、報道機関との緊密な連携、協力による多彩な企画展の開催などにより、多くの入館者を集めている。 ・子どもを対象に、水墨画家を講師とした水墨画ワークショップを開催し、その作品を展示するなど、教育普及活動を実施している。 ・魅力ある企画展や、工夫を凝らしたイベントの開催により施設利用者の増加を図るとともに、一般向け水墨画ワークショップの開催や若手出品作家たちによる座談会など、教育普及活動を充実することが必要である。また、広報、宣伝活動の拡充・強化も必要である。 ・県内の水墨画、版画、書など日本美術の愛好者の人口は多く、これらの人たちが専門的な知識を身につけたり、創作活動が展開できるような事業を検討する必要がある。 ・ボランティア、友の会による茶室、ミュージアムショップの運営などを行っており、県民サービスの向上を図るための施設として、駐車場の整備拡大が求められる。
<p>立山博物館 〈平成3年開館〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本三霊山のひとつである立山の雄大な自然及びそれに育まれた立山信仰の精神世界を紹介する特色ある博物館であり、身近に立山の自然、歴史、文化を学ぶことができる施設であるとともに、全国に立山の魅力を発信している。 ・「立山の自然と人間の関わり」をテーマに、立山信仰を展示内容とし、展示館、遙望館等で構成されており、講演会や映像事業等の普及活動を展開している。友の会の紙芝居による普及活動やボランティアによるまんだら遊苑の解説、旧宿坊の教算坊の

	<p>運営を行うなど、県民とともに行う博物館事業を促進している。教算坊や善道坊、嶋家などの文化財の活用や維持管理を積極的に行い、県民へ公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未解明の部分が多い立山信仰について、全国の研究者と連携を図りながら、継続的に調査研究を進めており、これにより立山信仰の檀那場と、そこでの信仰の状況が判明してきている。明治期以前には、日本三霊山として富士山や白山との間に少なからぬ関係があるなど、他の山岳修験や宗派との関係や影響を抜きにしては立山信仰を解明することができない部分も多くあり、今後、全国の大学や博物館等の研究者との連携がより重要になってくる。 ・パブリシティを利用した広報など集客に努めているが、カルデラ砂防博物館や観光機関等と一層の連携を図り、利用者の増加を図る必要がある。今後、布橋灌頂会などのイベントや、立山信仰をわかりやすく体験できる参加型事業の実施について検討する必要がある。 ・県民を対象にした「出前講座」、「こころ講座」の開催や、友人、親子で立山の自然、歴史、文化を学習する「たてはく探検隊」の実施など、教育普及活動を展開している。 ・広範囲にわたる複合施設であり、利用者サービスの向上を図る観点から、休憩や飲食の提供などについて検討する必要がある。
--	--

(2) その他の国・県関係施設

立山カルデラの雄大な自然と立山砂防事業の意義を県内外の人々に普及・紹介している立山カルデラ砂防博物館及び立山センター立山自然保護センター、植物の観賞、育成、保存とともに、植物の調査・研究を行う中央植物園、自然に関する学習の場を提供する自然博物館「ねいの里」、埋蔵文化財の調査研究と保存活用を図る埋蔵文化財センター、日展、院展などの展覧会に利用されている県民会館美術館、交通安全を紹介する交通公園交通安全博物館、教育博物館として資料収集、展示を行う教育記念館、健康づくりの大切さや健康的な生活習慣を身につけることの大切さを紹介するとやま健康パーク生命科学館、防災・災害に関する知識を学べる富山防災センター、高岡工芸高等学校に附属する青井記念館美術館などの自然、歴史、文化、生活、健康、防災等を紹介する特色ある美術館・博物館がある。

4 その他の美術館・博物館等

地域に密着した自然、歴史、文化等を紹介する美術館、博物館が多数あり、広く県民から親しまれている。

※（登）…登録博物館

施設名	現状
富山市郷土博物館（登） 〈昭和29年開館〉	・開館50年を迎え、平成17年にリニューアルオープン。築城から昭和の天守閣建設に至るまでの富山城の歴史を紹介している。富山藩と富山市の歴史・文化に関わる資料、郷土にゆかりの深い美術工芸品を収蔵。富山市のシンボルとして、市民に親しまれている。また、別館の佐藤記念美術館では、東洋の古美術を中心に収集・展示を行っている。
富山市民俗民芸村（登） 〈昭和54年開館〉	・民家を移築した施設において富山地域の歴史・民俗資料を中心に、売薬用具、埋蔵文化財、生活・生産用具等を収集・展示している。管理センターでは、各館で企画された講義、講座、陶芸などの実習活動を行っている。毎年、歴史民俗系、民芸系、美術系などの特別展を実施。また、富山市出身の水墨画家である篁牛人の画業を展示紹介するなど、学習と憩いの場を併せもつ文化集落（複合施設）として親しまれている。
高岡市美術館（登） 〈平成6年開館〉	・高岡市の伝統に基づき、金属工芸ならびに漆芸、絵画、彫刻などあらゆる美術・工芸分野から郷土にゆかりの深い作家やこれらに大きな影響を与えた作家の作品を系統的に収集・保存している。とりわけ金属工芸・金属造形については全国的・国際的な視野に立ち、幅広く収集し、特色ある常設展示を行っている。また、市民のためのギャラリーの設置や質の高い企画展示の実施、さらには構造改革特区「ものづくり・デザイン科」導入に伴う学校教育現場との連携による子ども向けの企画展や常設展の開催など、工夫を凝らしている。
高岡市万葉歴史館（登） 〈平成2年開館〉	・大伴家持ゆかりの地に所在し、万葉集とそれに関する資料の収集・整理・調査・研究を行うとともに、展示、出版、学習講座等の教育普及の場の提供などの諸活動を行っている。古写本等の収集は全国屈指である。豊富な収蔵品を誇り、研究者、文学者の活動も活発である。

<p>砺波市美術館 (登) 〈平成9年開館〉</p>	<p>・川辺外治、永原廣、清原啓一、下保昭など砺波にゆかりのある郷土作家作品、ロベール・ドアノー、ジャンルー・シーフ、井津建郎、高道宏、秋山庄太郎などの国際的に評価のある写真作品、北大路魯山人をはじめとする陶器漆芸などの日本の生活文化を表現する工芸作品を収集。年10回程度の企画展を開催し、市民アトリエでは市内の幼児、小学生（1、2年）を対象にワークショップを行うなど、地域に根付いた活動を展開している。</p>
<p>南砺市立福光美術館(登) 〈平成6年開館〉</p>	<p>・花鳥画家の石崎光瑠、世界的な板画家棟方志功、彫刻家であり陶芸家でもあった松村秀太郎の作品を中心に収蔵している。全国公募の棟方記念版画大賞など、版画を企画展の柱とし、描く見る展など広い世代の参加と、地域の特色にあふれた自主企画展示を行っている。棟方志功記念館・愛染苑は分館であり、県内外の棟方ファンが多く訪れる。</p>
<p>射水市新湊博物館(登) 〈平成10年開館〉</p>	<p>・江戸時代後期に越中・加賀・能登（富山県・石川県）の正確な地図を作った石黒信由の業績を中心に、射水の特徴あふれる歴史・民俗や、陶芸家で人間国宝第1号の石黒宗麿の芸術を紹介しており、これらに関連する企画展を年5～6回開催している。また、信由考案の測量器具による体験学習ができる測量庭園が整備されている。</p>
<p>射水市大島絵本館 〈平成6年開館〉</p>	<p>・「感じる・つくる・伝える」を多面的に楽しめる全国的にも珍しい絵本の複合施設である。絵本が与える夢や感動を求め地元周辺や隣県はもとより、東京や大阪などからも多くの人々が訪れる。12回の開催を数える手づくり絵本コンクールは国内外より多くの出品がある。またオリジナル絵本が作れるワークショップを常時開催し、絵本に対する親しみを深める取り組みを行っているほか、月ごとにイベントを替えるなど、情報発信を行っている。</p>
<p>入善町下山芸術の森発電所美術館(登) 〈平成7年開館〉</p>	<p>・大正時代の風格を感じる赤煉瓦づくりの建物や、発電用タービン・導水管が残された展示スペースは、芸術的な想像力をかきたてる独特な雰囲気漂わせている。地方文化の新たな創造のエネルギーを発電する芸術の発信基地をめざし、現代美術の立体造形を中心にした年4本程度の美術展を開催している。基本的に、流動的な現代美術の流れに対応するため収蔵品は持たず、</p>

	作家の滞在による制作での展示を見せるユニークな企画を展開している。
セレネ美術館 〈平成5年開館〉	・平山郁夫、塩出英雄、福井爽人、田淵俊夫、竹内浩一、手塚雄二、宮廻正明という日本を代表する作家に、黒部の自然を題材とする作品の制作を依頼し、完成した作品を常設展示してゆくとともに、今後の現代日本画の展開や動向を広く伝える質の高い美術館である。
西田美術館 〈平成5年開館〉	・富士化学工業(株)会長 西田安正の創設による美術館。シルクロードの古代陶磁器やロシアのイコン、前田常作の曼荼羅、ハンガリー作家ガランボシュの絵画等を常設展示している。また、幅広いコレクションの中からテーマを絞った館蔵品展を行っているほか、年2回の企画展を実施している。劔岳を正面に仰ぐロケーションの中、ゆっくりと観覧することができる。
桂樹舎和紙文庫 〈昭和60年開館〉	・旧学校校舎を活用した施設である。和紙への認識を深め、優秀な和紙作りの伝統を次代へ継承させるため、その役割の一端を担うことを目的とし、常設展示及び年2回程度の企画展を行っている。紙に関するものとしては、藤原期古経類、江戸時代古紙、芹沢銈介作品類、ビルマ・タイ経典類、エジプトパピルス、パーチメント、中国紙、タパ類その他 2,000 点を収蔵している。

〔上記のほか、富山県博物館協会加盟館園で国・県関係以外の49館の状況〕

新川地区

1	公立	朝日町立ふるさと美術館	郷土ゆかりの芸術家（日本画の豊秋半二、谷口山郷、長崎莫人、洋画の安達博文、彫刻家の開発芳光、柚月芳、書道家の大平山濤、童画家の井口文秀など）の作品を中心とする資料を収集、保存、普及を行っている。また地域文化の拠点となるべき幅広い活動を推進し、町民の教養・文化に寄与することを目的としている。
2	公立	うなづき友学館 (黒部市歴史民俗資料館)	郷土の歴史、文学、民俗、自然科学や黒部峡谷の電源開発、温泉開発などに関する資料の収集展示や保存を行う。また、黒部川に架橋された愛本刳橋の復元展示やDVD三面スクリーン映写「黒部の流れと宇奈月」により黒部川と人々とのかわりを紹介するなど、郷土研究・文化活動の普及と教養を高める施設である。

3	公立	黒部市吉田科学館	青少年に「楽しみながら自然と科学に対する関心と理解を深める場」、「自然の神秘に感動し創造の喜びを知る場」を提供する。プラネタリウム投映や公開ミニ科学実験、工作教室、パソコン教室、天文教室を開催している。
4	公立	黒部市美術館	郷土ゆかりの作家の作品を収集していくとともに、わが国における現代版画の流れをたどり、日本・郷土の二つの視点に立って収集・展示活動を行っている。
5	公立	水博物館構想推進室	黒部川流域を中心に新川地域全体を野外博物館（フィールドミュージアム）と考え、誰でも参加できるような身近な環境調査や交流事業を行っている。
6	公立	魚津埋没林博物館	国指定特別天然記念物「魚津埋没林」を現地で保存展示している。また、蜃気楼のハイビジョン映像を上映している。
7	公立	魚津水族博物館	「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」「日本海を科学する」をテーマに、地元の水生生物を中心に、約 400 種、1 万点の魚達を展示している。特に富山湾を代表するゲンゲ、ビクニン類、ホタルイカなどの深海生物の飼育・展示が特徴で、各種学習会や企画展示なども実施しており、多くの人たちの憩いの場となっている。
8	公立	魚津歴史民俗博物館	歴史民俗資料館と吉田記念郷土館の 2 館で構成され、資料館には江戸時代から昭和前半までの農具・漁具・生活具や魚津の伝統産業である魚津漆器の製作用具などを展示し、郷土館には縄文時代などの土器や石器、松倉城や松倉金山資料、江戸時代の絵図資料を展示している。また、敷地内には江戸時代の民家である澤崎家住宅もあり、見学できる。
9	私立	百河豚美術館	朝日町出身の実業家・青柳政二が収集したコレクションを、地方の芸術・文化の向上を願い、故郷の地で公開。浮世絵、水墨画、大和絵、陶磁器、金工、漆工、木工、書、仏像など多岐にわたり、特に江戸初期の陶芸家、野々村仁清のコレクションはその質、量において他ではみることのできない貴重なものである。年 3～4 回企画展を開催している。
10	私立	黒部川電気記念館	世紀の大事業と言われた黒四建設工事をはじめ、電源開発に心血を注いだ先人達の偉業を記念し、開発の歴史と黒部の大自然の雄大さを映像や模型により紹介している。

富山地区

11	公立	ほたるいかミュージアム	ほたるいかの生態的な情報を科学的に紹介する、世界でも例の無いユニークな施設である。
12	公立	滑川市立博物館	滑川市の歴史と民俗、自然環境について立体模型やグラフィックパネルを用いて展示している。特に、幕末から明治時代初期にかけての滑川の町並みをデフォルメして構築するなど、地域の歴史・民俗・自然科学諸資料の収集、保存、調査、研究、教育普及活動を行っている。
13	公立	弓の里歴史文化館	上市町の遺跡出土品や民具、町ゆかりの美術工芸作家の作品等を収蔵し、広く公開している。

14	公立	立山町郷土資料館	雄山神社前立社壇の樹齢 300 余年のタテヤマスギの切り株などが目を引く。郷土の旧家や村文書、立山信仰、越中瀬戸焼、郷土にゆかりのある作家の作品等に主眼をおく。絵画、写真、さつき等の展覧会が開かれることもあり、芸術愛好家達の作品発表の場である。
15	公立	富山市科学文化センター	郷土性豊かな科学博物館として市民に親しまれている。理工展示、自然史展示、季節展示、天文展示の 4 つの常設展示と、さまざまな視点で自然を紹介した写真展などの特別展示を展開している。(平成 18 年 9 月 4 日から平成 19 年 7 月頃までリニューアル工事のため休館)
16	公立	富山市ファミリーパーク	日本産動物を中心にした飼育展示や稀少動物の飼育繁殖を行い、飼育動物や園内の豊富な自然を活用した教育啓発事業を実施している。富山の自然や野生動物の情報を広く市民に伝える動物園として親しまれている。
17	公立	富山市大山歴史民俗資料館	大山の三賢人(宇治長次郎・金山穆韶・播隆上人)、有峰の生活と文化、常願寺川の治水と発電、亀谷銀山、長棟鉛山、恐竜関係資料を主に展示している。タッチパネルや映像資料もあり、楽しみながら大山の歴史と民俗を学ぶことができる。
18	公立	富山市八尾美術保存展示館	歴史と文化の街である当地に伝わる様々な芸術作品を保存し展示している。また、日本彫刻界の重鎮、横江嘉純の作品を展示している。
19	公立	富山市八尾曳山展示館	県指定有形民俗文化財である曳山を常時展示しており、観光客の誘致とともに、伝統文化財である曳山の保存及び活用を図る拠点である。
20	公立	富山市八尾おわら資料館	おわらに関する資料の展示や映像技術を駆使した体験型施設であり、おわらの歌詞や踊り、地方といったおわらの重要な要素の資料を展示、解説している。
21	公立	富山市八尾化石資料館「海韻館」	旧八尾町で採集された貝類化石を中心に時代地層別に構成し、それに合わせてイメージイラストも展示している。地域の古生代以前から新生代に至るまでの各時代の地層や化石を見ることができる。
22	公立	富山市猪谷関所館	関所に残された文書・武具・用具を展示するほか、廃村の神社にあった円空仏(神像 3 体、仏像 2 体)も一般公開している。
23	私立	北陸電力エネルギー科学館	科学やエネルギーについてもっと知りたいという好奇心・探求心を大切にしており、エネルギーに関する多彩な展示や科学実験、手作り科学イベントを毎週のように開催するなど、誰でも気軽に参加・体験できる「知的体験館」である。
24	私立	大谷和子子ども美術館	児童画理解を普及させる社会教育機関として、世界の児童画展などの開催や、児童の国際交流団派遣をはじめ各種の活動を行っている。また、高齢者、障害者と子供達との美術を通じた交流や芸術的生涯教育の場も提供している。
25	私立	坂のまち美術館	地域の伝統文化に密着した美術を愛する仲間たちによる手作りの美術館で、アート活動を通じて地域との交流を図る。現代洋画界を代表する大沢昌助の色と形の詩情漂う作品群、地元作家の林秋路が生涯をかけて描いた哀愁漂うおわら絵と版画を展示している。

高岡地区

26	公立	射水市陶房「匠の里」	誰でも気軽に陶芸を体験、学習することのできる施設である。多様な陶芸体験コースが用意されており、陶芸制作の基本技能のアドバイスを行うなど、配慮・工夫している。また、県内郷土作家や匠の里陶友会員の作品を展示している。
27	公立	高岡市立博物館	地域の博物館として、今日まで郷土の歴史・民俗・産業部門に関する調査研究資料の収集、保存、展示、教育普及活動等を実施している。また、「歴史」、「生産と生活」などの部門を中心に、テーマ別に企画展及び収蔵品展を開催している。
28	公立	高岡市福岡歴史民俗資料館	横穴古墳出土品、菅笠関係や旧福岡町の歴史と文化・民俗を紹介している。資料館建物は平成9年に登録有形文化財とされている。
29	公立	ミュゼふくおかカメラ館	カメラやその仕組み・歴史を紹介するとともに、企画展として写真展を開催し、写真や撮影の魅力を伝えている。
30	公立	氷見市立博物館	地域の博物館として、「あゆみ・とる・つくる」の3つのテーマに沿って、大境洞窟ジオラマや考古資料、漁業関係資料、移築民家と民具などを常設展示している。春秋を中心に、「歴史・考古シリーズ展」、「氷見の民俗シリーズ展」、「氷見にゆかりの人シリーズ展」などの特別展を開催している。
31	公立	氷見市海浜植物園	海浜植物専門植物園として、マングローブ植物、熱帯・亜熱帯地方の海浜植物や、つる性の植物、展示庭園、日本各地の海浜植物を集約展示している。
32	私立	大楽寺	建物2棟が登録有形文化財であるほか、北前船資料や日本海沿岸古民具のコレクションを保有している。また、熊野勸進十界図や江戸期の日本地図などの平安・鎌倉・室町・江戸時代の秘仏・仏画・墨蹟及び江戸期古典籍約2,200点を所蔵しており、事前予約により公開している。
33	私立	二上山郷土資料館	二上山周辺の資料をもとに、祖先が遺した文化の偉業を讃え、後世に伝えるとともに、地域文化の向上を目的としている。
34	私立	宗教法人 高岡山瑞龍寺	加賀藩三代藩主前田利常公によって建立された江戸初期を代表する禅宗建築である。七堂伽藍を備え、山門、仏殿、法堂は国宝、その他の建物が重要文化財として指定されている。

砺波地区

35	公立	小矢部ふるさと博物館	文化財保護・保存の観点から歴史・民俗・産業等に関する資料を展示公開し、市民の教育・学術及び文化の向上に寄与している。
36	公立	砺波郷土資料館	民具資料、出土品等の考古資料、古文書等を展示するほか、併設する砺波散村地域研究所の活動に伴う研究成果についても展示している。建物は市の指定文化財。
37	公立	となみ散居村ミュージアム	情報館、伝統館、交流館の3施設で構成され、散居景観を広く紹介し、景観の保全、農村文化や伝統文化の継承を行っている。

38	公立	松村外次郎記念 庄川美術館	旧庄川町出身の彫刻家松村外次郎が寄贈した貴重な作品を記念室で展示している。また、企画展示では、年間数回の展覧会を開催し、地域美術文化の発展に寄与している。
39	公立	庄川水資料館	昔から庄川と深く関わってきた人々の知恵や生活文化を映像や資料、模型などで紹介している。
40	公立	福野文化創造センター ヘリオス	菅創吉作品 291 点、素画 46 点、長崎莫人作品 140 点、印牧邦一作品 33 点や県内出身作家 20 名の作品を展示している。
41	公立	井波彫刻総合会館	230 余年の伝統を誇る木彫刻から現代彫刻、工芸作品にいたるまで、技術の粋を集めた作品を展示している。
42	公立	南砺市立井波歴史 民俗資料館	高瀬遺跡の出土品の収蔵と常設展示をしているほか、砺波地域の歴史資料や民俗資料の収集、保存を行っている。
43	公立	利賀民俗館	利賀村内から収集した民具約 1,000 点を展示している。
44	公立	南砺市たいら郷土 館	平地区の歴史や産業、特に火薬の原料として加賀藩に納めていた塩硝に関する資料等をビデオや映像でわかりやすく紹介している。
45	公立	南砺市相倉民俗館	地域の民俗資料を収集し、風土に培われた生活用具等を展示公開している。
46	私立	宗教法人 千光寺	聖観音像(白鳳期)、大威徳明王図、両界曼荼羅図(鎌倉期)、上杉謙信奉納刃(備前長船久光作)、禁制朱印状等を展示している。
47	私立	井波美術館	全国的・国際的公募展に受賞・入選した井波の作家の代表作品を、広く人々に紹介している。
48	私立	民俗資料館 村上 家	建物は、昭和 33 年に重要文化財に指定されている。館内では煙硝製造用具、和紙製造用具、養蚕等の資料を展示している。
49	私立	宗教法人 行徳寺	蓮如上人の直弟子である郷土の光妙好人赤尾道宗の書き残した赤尾道宗心得二十一ヶ条や蓮如御消息、板画家棟方志功、陶芸家河井寛次郎・濱田庄司等の作品を展示している。

資料編 3

■ 策定の経過

平成17年	7月	17年度第1回富山県文化審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知事から計画策定について諮問 ・ 県民アンケート調査項目の検討
		県民アンケート調査等の実施	
	9月	17年度第2回富山県文化審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民アンケート結果の中間報告 ・ 計画の骨子（たたき台）の審議
	12月	17年度第3回富山県文化審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定に向けた論点整理の審議
平成18年	2月	芸術文化団体、NPO等ボランティア団体、メセナ企業等へのアンケート実施	
	4月	18年度第1回富山県文化審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告（案）について審議
	6月	富山県議会厚生環境常任委員会に報告	
	7月	中間報告に係る意見募集の実施	
	9月	18年度第2回富山県文化審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画（案）について審議
		新世紀とやま文化振興計画（案）の答申	
	10月	新世紀とやま文化振興計画の策定	

資料編 4

■富山県文化審議会委員名簿(平成18年9月1日現在)

氏 名	役 職 等
いけがみ じゅん 池上 惇	京都大学 名誉教授
いけだ やすたか 池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店 代表取締役
いしかわ みちこ 石川 美智子	富山県立近代美術館ボランティア「どおむの会」代表 富山県立近代美術館運営委員会委員
いとう やすお 伊藤 裕夫	富山大学芸術文化学部 教授
うえの さちお 上野 幸夫	職藝学院 教授
おおたに ゆみこ 大谷 弓子	富山県児童美術研究会 会長
かさい はるか 可西 晴香	富山県洋舞協会 会長
かなやま しげと 金山 茂人	(財)東京交響楽団 理事、最高顧問
さいとう いくこ 齋藤 郁子	(財)舞台芸術財団演劇人会議 常務理事
さかい わかこ 酒井 和佳子	富山県華道連合会 理事長
たかはた のぶお 高畑 信雄	富山県高等学校文化連盟 事務局長
つみだに まゆみ 堤谷 真裕美	公募委員
どあい かつひこ 土合 勝彦	北陸吹奏楽連盟 会長
はたけやま まきこ 畠山 満喜子	富山県歌人連盟 幹事
ひらた オリザ 平田 オリザ	劇作家、演出家、劇団青年団主宰 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 教授
ふなもと ゆきひと 舟本 幸人	(社)富山県芸術文化協会 理事・事務局長
めぐみ さゆり 恵 小百合	江戸川大学 教授
やまにし じゅんいち 山西 潤一	富山大学 人間発達学部長
よしだ いずみ 吉田 泉	高岡法科大学 教授
よしだ ただひろ 吉田 忠裕	YKK(株) 代表取締役会長兼社長
わかばやし ただし 若林 忠嗣	新川文化ホール振興協議会副会長、学びの森音楽祭実行委員会副委員長